

經 營 学 部

履 修 要 項

平 成 2 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(日) 入学式
- 9日(月) } 新入生オリエンテーション
- 13日(金) }
- 9日(月) } 在校生身分証明登録
- 19日(木) }
- 9日(月) } 在校生成績発表
- 10日(火) }
- 9日(月) } 体育実技II受講届(種目選択届)
- 10日(火) } 受付(学部2年次生)
- 11日(水) } 在校生成績質疑応答
- 20日(金) }
- 14日(土) 前期授業開始
- 23日(月) } 履修届受付(学部・短大)
- } (学部により受付日が異なる)
- 26日(木) }
- 5月7日(月) } 春季健康診断(卒業年次生対象)
- } 11日(金)
- 25日(金) } 卒業論文論題受付(仏教・文学部の
- } 4年次生)(締切日は正午まで)
- 6月11日(月) }
- 7月6日(金) } 外国語指定届受付(仏教・文<除英米
- } 文>・法学部・短大国文・英文の1年次
- } 生および昭和63年度以前入学の経済
- } 学部の2年次生)
- 13日(金) } 中間試験(授業平常どおり)
- } 19日(木)
- 19日(木) 前期授業最終日
- 20日(金) } 前期終了科目定期試験
- 21日(土) }
- 23日(月) 夏季休暇第1日(9月14日まで)
- 22日(日) } 体育実技II集中授業コース
- } (学部2年次生)
- 26日(木) }
- 26日(木) 前期終了科目定期試験欠試届(追試
- } 験申込) 受付締切

後 期

- 9月7日(金) } 補講期間
- } 14日(金)
- 17日(月) 後期授業開始
- 17日(月) } 前期終了科目定期試験成績発表(質
- 18日(火) } 疑応答) および再試験申込受付

- 25日(火) } 前期終了科目追・再試験
- } (授業平常どおり)
- 10月1日(月) }
- 10月2日(火) } 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
- } 5日(金)
- 3日(水) } 専攻コース指定届受付
- 4日(木) } (歴史・社会学科の1年次生)
- 15日(月) } 第108回開校記念日(全学休業)
- 24日(水) } 転部・転科試験願書受付
- } 26日(金)
- 11月16日(金) } 転部・転科試験
- 12月1日(土) } 卒業論文受付(仏教・文学部の4年
- } 次生)(締切日は正午まで)
- 10日(月) }
- 3日(月) } 編・再入学願書受付
- } 7日(金)
- 19日(水) } 冬季休暇第1日(1月7日まで)
- 19日(水) } 体育実技II集中授業コース
- } (学部2年次生)
- 23日(日) }
- 20日(木) } 編・再入学試験

平成3年

- 1月8日(火) 後期授業再開
- 14日(月) 後期授業最終日
- 16日(水) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- } 25日(金)
- 26日(土) } 定期試験(一般・外国語・保健体育
- } 科目)
- 2月4日(月) }
- 5日(火) 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の
- } 4年次生)
- 6日(水) 定期試験欠試届受付締切(学部4年
- } 次生・短大生)
- } 定期試験欠試届(追試験申込)受付締
- } 切(学部1~3年次生)
- 18日(月) } 体育実技IIシーズン・コース(スキ
- } ー)(学部2年次生)
- 22日(金) }
- 19日(火) } 成績発表(質疑応答)および追・再試
- 20日(水) } 験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 25日(月) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)
- } および追試験(学部1~3年次生)
- 3月2日(土) }
- 19日(火) } 卒業者名簿発表
- 25日(月) } 卒業式

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (1)
2. 授業科目の単位計算 (1)
3. 授業科目の区分 (1)

II 卒業に必要な単位数と学士号

1. 卒業に必要な単位数 (2)
2. 学 士 号 (3)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (4)
2. 外国語科目の履修方法 (6)
3. 保健体育科目の履修方法 (9)
4. 基礎教育科目の履修方法 (10)
5. 専門教育科目の履修方法 (10)
6. 他学部科目の履修方法 (12)
7. 随意科目の履修方法 (14)
8. 再履修科目の履修方法 (14)
- ※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 (14)
- ※ 授業科目のコード番号について (15)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (16)
2. 履修届記入上の注意 (17)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (18)

V 試験および成績評価

1. 定期試験 (19)
2. 中間試験 (19)
3. 追・再試験 (19)
4. 受験心得 (20)
5. 成績評価・単位認定 (20)
6. 試験時間 (20)

VI	進級について	(21)
VII	教職課程・資格講座	(22)
VIII	事務取扱いについて	
	1. 成績発表・成績証明書	(23)
	2. 授業時間	(23)
	3. 事務室の事務受付時間	(23)
	4. 休 講	(23)
	5. 掲 示	(23)
	6. 問い合わせ	(23)
IX	学籍について	
	1. 修業年限と在学年数	(24)
	2. 休 学	(24)
	3. 復 学	(24)
	4. 退 学	(25)
	5. 除 籍	(25)
	6. 懲 戒	(25)
	7. 編 入 学 (学士入学)	(25)
	8. 再 入 学	(25)
	9. 転部・転科	(25)
	10. 留 学	(26)
	11. 学生氏名・保証人	(26)
	12. 学生番号	(26)
X	既修得単位の認定について	(27)
XI	届書・願書について	(28)
XII	各種証明書取扱い窓口	(29)
	試験実施規程 (抜粋)	(30)
	講義内容	(33)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準に従って授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学年数は4年以上（7年を超えてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1 単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

- | | | | |
|-----------|--------------------|-------|-----------|
| 1. 一般教育科目 | （人文分野・社会分野・自然分野） | …………… | 選択必修科目 |
| 2. 外国語科目 | （第1外国語・第2外国語） | …………… | 選択必修科目 |
| 3. 保健体育科目 | （講義・実技） | …………… | 必修科目 |
| 4. 基礎教育科目 | （専門教育科目の基礎となる科目） | …………… | 必修科目 |
| 5. 専門教育科目 | （専門的知識を内容とする科目） | …………… | 必修科目・選択科目 |
| 6. 他学部科目 | （履修可能な他学部公開設置科目） | …………… | 選択科目 |
| 7. 随意科目 | （卒業に必要な単位に含まれない科目） | …………… | 選択科目 |

- ※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目
選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と学士号

1. 卒業に必要な単位数

A. 昭和63年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	32	} 140以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	16	
	第 2 外 国 語	4	8		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		2	8	8	
専 門 教 育 科 目	必 修	3	12	80	
	選 択	17	68		

B. 昭和60～62年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	} 142以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	16	
	第 2 外 国 語	4	8		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		2	8	8	
専 門 教 育 科 目	必 修	3	12	78	
	選 択	17	66		

C. 昭和58・59年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	} 142以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	16	
	第 2 外 国 語	4	8		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		2	8	8	
専 門 教 育 科 目	必 修	3	12	78	
	選 択	17	66		

2. 学 士 号

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書が授与され、「経営学士」の称号が与えられる。

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
 - ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。）
 - ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2次年の必修科目とする。
- ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

A. 昭和63年度以降入学生適用

人文分野	4科目	計16単位	}	合計8科目 32単位
社会分野	2科目	計8単位		
自然分野	2科目	計8単位		

分 野	授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数	修 得 単 位	計	備 考
人文分野	宗教学Ⅰ（1年次必修）	4	「宗教学Ⅰ」・ 「宗教学Ⅱ」の 2科目を含めて 4科目選択必修	16	}	
	宗教学Ⅱ（2年次必修）	4				
	哲 学	4				
	論 理 学	4				
	倫 理 学	4				
	文 学	4				
社会分野	歴 史 学	4	2科目選択必修	8	}	教員免許状を取 得しようとする ものは「法学憲 法」を必修とす る。
	法 学 憲 法 (日本国憲法2単位を含む)	4				
	社 会 学	4				
	地 理 学	4				
	統 計 学	4				
自然分野	文 化 人 類 学	4	2科目選択必修	8	}	
	自 然 科 学 概 論	4				
	数 学	4				
	心 理 学	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は木曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

B. 昭和62年度以前入学生適用

人文分野 4科目 計16単位
 社会分野 3科目 計12単位 } 合計9科目 36単位
 自然分野 2科目 計8単位 }

分野	授業科目	単位	履修科目数	修得単位	計	備考
人文分野	宗教学Ⅰ（1年次必修）	4	「宗教学Ⅰ」・ 「宗教学Ⅱ」の 2科目を含めて 4科目選択必修	16	36	
	宗教学Ⅱ（2年次必修）	4				
	哲学	4				
	論理学	4				
	倫理	4				
	文歴史	4				
社会分野	法学憲法 （日本国憲法2単位を含む）	4	3科目選択必修	12	36	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。
	社会学（2年次）	4				
	地理学	4				
	統計学（2年次）	4				
自然分野	文化人類学	4	2科目選択必修	8	36	
	自然科学概論	4				
	数学	4				
	心理学（2年次）	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は木曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6ヵ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2ヵ国語を履修することになり、その2ヵ国語を1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

なお、第1外国語は英語、第2外国語は他の外国語となる。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	4	8
2年次	2	4	2	4	4	8
計	4	8	4	8	8	16

1年次の履修

6ヵ国語のうち英語ⅠA・ⅠBの2科目と入学手続の際に指定した外国語ⅠA・ⅠBの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語ⅠA	2		ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。ただしⅠAは「英会話Ⅰ（定員40名）」または「英語LLⅠ（定員30名）」に振り替えできる。なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語ⅠB	2		
英会話Ⅰ	2		
英語LLⅠ	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイツ語ⅠA	2	文法	5ヵ国語のうちから入学手続の際指定した1ヵ国語ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。
ドイツ語ⅠB	2	講読	
フランス語ⅠA	2	文法	
フランス語ⅠB	2	講読	
中国語ⅠA	2		
中国語ⅠB	2		
スペイン語ⅠA	2		
スペイン語ⅠB	2		
ロシア語ⅠA	2		
ロシア語ⅠB	2		

〔名称変更科目〕

- 新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。
- 成績表は、元年度発表分では旧名称で、2年度からは新名称で表示される。

新名称

旧名称

〔英語、ドイツ語、フランス語〕ⅠA — 〔英語、ドイツ語、フランス語〕ⅠG
〔中国語、スペイン語、ロシア語〕
〔英語、ドイツ語、フランス語〕ⅠB — 〔英語、ドイツ語、フランス語〕ⅠR
〔中国語、スペイン語、ロシア語〕

※ 英語科目内容

英語ⅠA：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語ⅠB：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※ LL……ランゲージ・ラボラトリー

※「英語ⅠB」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修した2ヵ国語（英語と他の1ヵ国語）を、それぞれⅡA・ⅡBの2科目ずつ計4科目8単位必修とする。

第1外国語（英語を2科目4単位必修）

授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 Ⅱ A	2	
英 語 Ⅱ B	2	

第2外国語（1年次で履修した英語以外の1ヵ国語を2科目4単位必修）

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
ド イ ツ 語 Ⅱ A	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ B	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ B	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ A	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ B	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ B	2	
中 国 語 Ⅱ A	2				
中 国 語 Ⅱ B	2				

〔名称変更科目〕

○新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

○成績表は、元年度発表分では旧名称で、2年度からは新名称で表示される。

新 名 称

旧 名 称

{ 英語, ドイツ語, フランス語 } Ⅱ A — { 英語, ドイツ語, フランス語 } 2 A I
 { 中国語, スペイン語, ロシア語 }
 { 英語, ドイツ語, フランス語 } Ⅱ B — { 英語, ドイツ語, フランス語 } 2 A II
 { 中国語, スペイン語, ロシア語 }

※ 英語科目内容

英語ⅡA：意志表現と意志伝達能力を発展させ、応用力を修得する。

英語ⅡB：講読を通し、はば広い教養を修得する。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ハ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P. 14参照）。
- ニ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度以降入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生には、旧カリキュラムが適用される。

A. 昭和60年度以降入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は木曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休暇中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

B. 昭和59年度以前入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前期または後期
実 技	体育実技	2	通 年

イ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

ロ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

ハ. 講義・実技とも1年次生は玉川校舎で授業を行う。

※ 実技についての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

4. 基礎教育科目の履修方法

基礎教育科目とは専門教育科目の基礎となる授業科目で、1年次において2科目8単位を必修とする。

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	経済学概説	4	
	経営学概説	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

必修科目(3科目12単位)

1年次必修			2年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
簿記学	4		経営学	4	
			会計学	4	

選択科目

A. 昭和63年度以降入学生適用（68単位以上）

B. 62年度以前入学生適用（66単位以上）

2年次選択			3・4年次選択			3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
経営史	4		経営労務論	4		会計監査論	4	
経営管理論	4		経営組織論	4	休講	証券市場論	4	
企業形態論	4		経営技術論	4		商業史	4	
プログラミング論	4		経営情報論	4		経済政策	4	
原価計算論	4		経営科学	4		財政学	4	
経済原論	4		公益企業論	4		金融論	4	
近代経済学	4		マーケティング論	4		国際経済論	4	
日本経済史	4		商業経営論	4		国際金融論	4	
統計原論	4		保険経営論	4		日本経済論	4	休講
民法 I	4		銀行経営論	4		民法 II	4	
演習 I	4		国際経営論	4		外書講読	4	
3年次選択			日本経営史	4		4年次選択		
商法 I	4		経営統計	4		商法 II	4	
演習 II	4		上級簿記	4		労働法	4	
3・4年次選択			財務会計論	4		演習 III	4	
経営学史	4		管理会計論	4				
アメリカ経営学	4		経営分析論	4				
経営財務論	4		税務会計論	4				

6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科、もしくは他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は、次の要領で履修することができる。

なお、履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち、他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.13参照）

ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし、授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ. 履修科目数

履修できる科目数は、卒業までに3科目12単位以内とする。

なお、その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ. 履修方法

- (1) 「履修要項」の講義内容を参考に、『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し、『他学部履修願』に必要事項を記入の上、必ず最初の授業に出席し授業科目担当教員の受講許可を受ける。

なお、『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は、教務部窓口で配布する。

- (2) 『単位履修届』に履修科目（他学部履修科目を含む）その他必要事項を記入し、『他学部履修許可書』を添えて、所定の期日に提出すること。

ホ. 履修登録上の注意

- (1) 所属学科の開設科目は、他学部科目として履修登録できない。
- (2) 他学部科目は、『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。
- (3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は、1科目のみ履修することができる。

ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は、改めて前項の手続きを経なければならない。

なお、再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.14）を参照のこと。

ト. 単位認定

修得した単位は、所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し、卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開講学科	授業科目	単位	履修年次	備考	開講学科	授業科目	単位	履修年次	備考
禅学科	禅学特講Ⅰ	4	3・4		社会学科	マスコミュニケーション	4	3・4	
	禅学特講Ⅱ	4	3・4			産業社会学	4	3・4	
	禅学特講Ⅲ	4	3・4			都市社会学	4	3・4	
	禅学特講Ⅳ	4	3・4			社会福祉発達史	4	3・4	
	禅学思想史	4	3・4		経済学科	ソビエト経済論	4	3・4	
	哲学史	4	3・4			社会政策	4	3・4	
仏教学科	印度仏教史	4	3・4			国民所得論	4	3・4	
	中国仏教史	4	3・4			中国経済論	4	3・4	
	日本仏教史	4	3・4			アジア経済論	4	3・4	
	日用経典	4	3・4			中小企業論	4	3・4	
	仏教美術	4	3・4		教育経済論	4	3・4		
	現代哲学概説	4	3・4		アメリカ経済論	4	3・4		
国文学科	上代文学	4	3・4		商学科	商業政策	4	3・4	
	中世文学	4	3・4			貿易論	4	3・4	
	近世文学	4	3・4		法律学科	行政法Ⅱ	4	3・4	
	近代文学	4	3・4			民法Ⅳ(1)	4	3・4	
	中国文学	4	3・4			民法Ⅳ(2)	4	4	
英米文学科	英文学特講Ⅰ	4	3・4		政治学科	比較憲法	4	3・4	
	英文学特講Ⅱ	4	3・4			地方自治法	4	3・4	
	英文学特講Ⅲ	4	3・4			経済法	4	3・4	
	英文学特講Ⅳ	4	3・4			国際関係論	4	3・4	
	英文学特講Ⅴ	4	3・4			西洋政治史	4	3・4	
	英文学特講Ⅵ	4	3・4			宣伝広告論	4	3・4	
	英米演劇特講	4	3・4			比較社会構造論	4	3・4	休講
	米文学特講Ⅰ	4	3・4			政党論	4	3・4	
	米文学特講Ⅲ	4	3・4			短大文科	国文講読Ⅰ(上代)	2	3・4
時事英語	4	3・4		国文講読Ⅱ(中古)	2		3・4		
地理学科	地質学	4	3・4		国文講読Ⅲ(中世)		2	3・4	
	気候学	4	3・4		国文講読Ⅳ(近世)		2	3・4	
	人口地理学	4	3・4		国文講読Ⅴ(近・現代)		2	3・4	
	応用地理学Ⅰ	4	3・4		国文特講Ⅴ(近・現代)	4	3・4		
	都市地理学	4	3・4		短大英文科	英文タイプライティングⅡ	2	3・4	
文化地理学	4	3・4		時事英語		4	3・4		
歴史学科	日本仏教史Ⅱ	4	3・4	休講	短大放射線科	計算機言語概論	2	3・4	半期科目
	日本史特講Ⅶ(近代)	4	3・4			臨床放射線特講Ⅰ	2	3・4	半期科目
	東洋史特講Ⅹ(近・現代)	4	3・4			応用計測学	2	3・4	半期科目
	西洋文化史Ⅰ	4	3・4						
	考古学特講Ⅲ	4	3・4	(隔年開講)					
	歴史哲学	4	3・4						
	哲学史	4	3・4						
日本民俗学	4	3・4							

※ 計算機言語概論については、機器数の関係上選抜により受講者を決定します。

7. 随意科目の履修方法

随意科目は2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
比較思想特論	4		英語 L L II	2		スペイン語FLL(初級)	2	
英会話Ⅱ	2		ドイツ語FLL(初級)	2		スペイン語FLL(中級)	2	
ドイツ語 F	2		ドイツ語FLL(中級)	2		ロシア語FLL(初級)	2	
フランス語 F	2		フランス語FLL(初級)	2		ロシア語FLL(中級)	2	
中国語 F	2		フランス語FLL(中級)	2				
スペイン語 F	2		中国語FLL(初級)	2				
ロシア語 F	2		中国語FLL(中級)	2				

※ 「英会話Ⅱ」・「英語 L L II」の履修を希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を受けること。

8. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を再度履修することをいう。

注）再度履修する科目であっても、前年度において履修登録していない場合は新履修となる。

ロ. 再履修する場合、授業科目名が同じであれば、担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。

ニ. 外国語・体育実技Ⅰ（昭和59年度以前入学生は体育実技）・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。なお、外国語科目を再履修する場合は、2年度に名称変更があったので、新名称科目の再履修クラスで履修すること。ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法（昭和63年度以降入学生適用）

『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で、原則として1・2年次において履修すること。

○日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。

○日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。

○昭和62年度以前入学生で日本語・日本事情科目の履修を希望する学生、または昭和63年度以降入学生で各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。

（注）詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部 学科 系列 分野 一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P.26参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一 般 教 育 科 目	0	
人 文 分 野		1 (必修) ・ 2 (選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基 礎 教 育 科 目	1	5
外 国 語 科 目	2	
保 健 体 育 科 目	4	
実 技		1
講 義		2
専 門 教 育 科 目	5	
必 修 科 目		1 ・ 2 ・ 3
選 択 科 目		5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
随 意 科 目	7	
再 履 修 科 目	8	
課 程 ・ 講 座 科 目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8

Ⅳ 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の『単位履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年 次	新 履 修 科 目 数	課 程 ・ 講 座 登 録 者 科 目 数
1 年 次	1 5 科 目	—
2 年 次	5 科 目 以 上 1 2 科 目 以 内	1 8 科 目 以 内
3 年 次	5 科 目 以 上 1 1 科 目 以 内	1 8 科 目 以 内
4 年 次	3 科 目 以 上 1 4 科 目 以 内	1 8 科 目 以 内

イ. 体育実技Ⅱ・随意科目は，上記表の制限外とする。

ロ. 半期科目も1科目とする。

ハ. 再履修科目の履修については，次のとおりとする。

(1) 2年次生はすべて制限科目数（12科目以内）の範囲内で履修すること。

(2) 3・4年次生は外国語科目・保健体育科目の再履修についてのみ制限科目数（3年次：11科目以内，4年次：14科目以内）の枠外とし，17科目以内で履修できるものとする。

ニ. 制限科目数の範囲内で順次履修すれば，課程・講座科目の履修や未・再履修の補充も制限科目数の範囲内で十分可能である。

Ⅱ) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は，学業の意志のないものとして処理する。なお，指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること。）

ロ. 履修届の日時，場所等についての詳細は教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし，他学部履修科目（P.13参照）は，履修登録できる。

また，教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授 業 時 間 表 (例)

月 曜 日			
	授 業 科 目	科 目 コ ー ド	担 当 担 当 コ ー ド
一 時 限	ド イ ツ 語 1 G	512201	百 濟 879
	~~~~~		
二 時 限	保健体育理論 (前期)	514201	長 濱 A10
	保健体育理論 (後期)		
~~~~~			
三 時 限	宗 教 学 I	510101	平井 (俊) 735
~~~~~			
四 時 限	論 理 学	510203	國 嶋 306
	~~~~~		
五 時 限	自然科学概論	510401	宇 和 川 104
	~~~~~		

正 しい 記 入 例

曜 日	時 限	再 履	科 目 名	科 目 コ ー ド	担 当	担 当 コ ー ド
(1)	1		ド イ ツ 語 1 G	5 1 2 2 0 1	百 濟	8 7 9
	2		保健体育理論 (前期)	5 1 4 2 0 1	長 濱	A 1 0
	3		宗 教 学 I	5 1 0 1 0 1	平井 (俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	5 1 0 2 0 3	國 嶋	3 0 6
	5		自然科学概論	5 1 0 4 0 1	宇 和 川	1 0 4

イ. 楷書体で正確に記入すること。

ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。

ハ. 授業時間表のとおり記入すること。

ニ. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。

ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。

ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。

(1) 科目名・科目コード、担当名・担当コードが一致しない場合

(2) 時限を誤って記入した場合

(3) 判読できない数字で記入した場合 (例として間違い易い数字 0と6, 1と7)

(4) その他、不明瞭に記入した場合

ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名・担当コードを正しく記入すること。

チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。

リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

### 3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	経済学概説，経営学概説（必修）	2
5	専門教育科目	簿記学（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から5科目を選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	5
1年次履修制限科目数			15

## V 試験および成績評価

### 1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月20日(金)～21日(土)に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月16日(水)～2月4日(月)に実施される。

ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。

なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。

(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

### 2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

### 3. 追・再試験

#### I) 追 試 験

イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)

ロ. 追試験料は徴収しない。

#### II) 再 試 験

1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。

ロ. 受験料は1科目1,000円とする。

#### III) 体育・外国語科目・その他

イ. 体育実技、演習は追・再試験ともこれを行わない。

ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

#### 4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
  - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
  - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
  - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
  - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
  - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
  - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
  - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
  - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部窓口にて手続きをすること。

#### 5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)および不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。  
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

#### 6. 試験時間

定期試験実施時間（前期・後期とも）		追・再試験実施時間（前期）	追・再試験実施時間（後期）
1時限 9:30～10:30	4時限 14:30～15:30	1時限 16:10～17:00	1時限 9:30～10:20
2時限 11:00～12:00	5時限 15:50～16:50	2時限 17:10～18:00	2時限 10:50～11:40
3時限 13:00～14:00	6時限 17:10～18:10		3時限 13:00～13:50
			4時限 14:10～15:00
			5時限 15:20～16:10

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.30）ので参照のこと。

## VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。  
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～48単位	86単位以上修得しているが、保健体育科目・外国語科目の不足単位数が12単位以下の場合。
原 級 留 置	19単位以下	47単位以下	85単位以下。または86単位以上修得しているが、保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。

## VII 教職課程・資格講座

経営学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次表のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	〃	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	〃	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。（社会福祉士の基礎科目も修得可能）
社会教育主事講座	〃	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1ヵ月前より掲示板で、その旨指示する。

## VIII 事務取扱いについて

### 1. 成績発表・成績証明書

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は、卒業年次生以外は原則として発行しない。

### 2. 授業時間

授業時間は、次表のとおりである。

時 限	第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限	第 5 時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

### 3. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

### 4. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

### 5. 掲 示

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

### 6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

## IX 学籍について

### 1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。(本大学の修業年限は4年)
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

### 2. 休 学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

#### I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
  - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
  - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届
  - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

#### II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

#### III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休 学 願 提 出 日	学 費
4月1日～9月30日	前期分納入済のこと。(後期分免除)
10月1日～11月30日	前期分・後期分共納入のこと。

#### IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

### 3. 復 学

- イ. 休学した者が復学する場合は、前期学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

## 4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願出すること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日は次のとおりとする。

- (1) 当該期学費納入者 …… 退学願提出日
- (2) 当該期学費未納者 …… 学費納入済学期の最終日

## 5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を越えた者

ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

## 6. 懲 戒

イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
- (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

## 7. 編 入 学 (学士入学)

本大学卒業生(卒業見込者)で卒業学部他学科または他学部学科の3年次に編入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上入学を許可する。

イ. 3年次編入を出願していても、志望学科の単位認定の結果、2年次に入学を許可することがある。

ロ. 3年次または2年次に編入学を許可された者は、既にそれぞれ2年または1年の在学年数を経たものとする。

## 8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。

ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。(出願時を基準とする)

ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

## 9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部の他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。(学科により異なる)

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

## 10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

## 11. 学生氏名・保証人

- イ. 届け出の学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に記載されたとおりとする。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。
- ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。
- ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

## 12. 学生番号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は6桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分

--	--	--	--	--	--

⋮ ⋮ ⋮  
 学 学 入  
 部 科 学  
 部 科 部  
 (西  
 度  
 曆)  
 一  
 連  
 番  
 号

(例) 1990年度入学・経営学部  
経営学科12番の場合

5	1	0	0	1	2
---	---	---	---	---	---

⋮ ⋮ ⋮  
 経 経 一  
 営 営 九  
 学 学 〇  
 部 部 年  
 入  
 学  
 12  
 番

学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学 部 番 号	学 科 番 号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

## X 既修得単位の認定について

### イ. 新たに第1年次に入学した者の既修得単位の認定

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者については、学則第30条の2により、従前在学した大学等において既に修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定することができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

### ロ. 編入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、編入学時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

### ハ. 再入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位については、再入学時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

### ニ. 転部・転科者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位は、転部・転科が許可された時に、提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

### ホ. 留学者の単位認定

本学より外国の協定校・認定校へ派遣された学生で、留学先の成績証明書・授業内容等をもとに当該教授会で認定した授業科目（専門選択科目）の単位は、卒業所要単位の算入される。

## XI 届書・願書について

（教務部扱いのもの）

種 類	要 領 （ 必 要 書 類 ）	本人 印	保証 人印	取扱 窓口	
届       書	単 位 履 修 届	・ 所定用紙あり ・ 各年度に単位修得しようとする授業科目を指定 期日に必ず届け出ること	要	不要	掲示
	欠 試 届	・ 所定用紙あり ・ 本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること （締切日は掲示参照）	不要	不要	⑨
	改 氏 名 届	・ 所定用紙あり ・ 戸籍抄本添付 ・ 変更後1週間以内	要	不要	⑤
	本籍地（都道府県 名）変更届	・ 所定用紙あり ・ 住民票記載事項証明書添付 ・ 変更後1週間以内	要	不要	
	保証人変更届	・ 所定用紙あり ・ 在学誓書（保証書）添付	要	要	
	保証人住所変更届	・ 所定用紙あり ・ 変更後1週間以内	要	不要	
	死 亡 届	・ 所定用紙あり ・ 死亡が証明できる書類（写し可）添付	/	要	
願   書	休 学 願	・ 所定用紙あり ・ 傷病による場合は、医師の診断書添付 ・ 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在 留期間を証明する書類および在留地届 ・ その他の場合は、保証人連署の理由書	要	要	⑤
	復 学 願	・ 所定用紙あり ・ 傷病による休学をした場合は、医師の通学可能 である証明書添付 ・ 4月10日までに提出すること	要	要	
	退 学 願	・ 所定用紙あり ・ 学生証添付	要	要	

## XII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	1通 100円  { 英文証明書 } 1通 300円
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
単位修得証明書（卒業生のみ） （教職，司書教諭，学芸員，社会教育，社会福祉）		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書		
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し，手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上，取扱い窓口に応じ込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は，6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので，掲示に注意し，十分余裕をもって申し込むこと。

## 試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

### （目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

### （試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

### （試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
  - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
  - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
  - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担当教員が中間審査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
  - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
  - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

### （試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担当教員の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

### （試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

### （受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。



## 講義内容目次

一般教育科目	.....	(37)
保健体育科目	.....	(42)
随意科目	.....	(43)
基礎教育科目	.....	(46)
専門教育科目	.....	(47)
他学部履修科目	.....	(57)

[巻末]

教職および資格講座



## 一般教育科目

人文分野	
宗教学Ⅰ (池田 練太郎) .....	37
宗教学Ⅰ (石川 力山) .....	37
宗教学Ⅰ (伊藤 隆寿) .....	37
宗教学Ⅰ (山内 舜雄) .....	37
宗教学Ⅰ (再クラス) (岡部 和雄) .....	37
宗教学Ⅰ (再クラス) (奈良 康明) .....	37
宗教学Ⅱ (皆川 広義) .....	37
宗教学Ⅱ (椎名 宏雄) .....	38
宗教学Ⅱ (佐々木 章格) .....	38
宗教学Ⅱ (白金 昭文) .....	38
哲学 (榊原 哲成) .....	38
論理学 (久保 陽一) .....	38
倫理学 (國嶋 一則) .....	38
文学 (島田 伸一郎) .....	39
歴史学 (茂澤 方尚) .....	39
社会分野	
法学憲法 (茂野 隆晴) .....	39
社会学 (岩上 真珠) .....	39
地理学 (中島 義一) .....	39
統計学 (日下 泰夫) .....	39
文化人類学 (小川 順敬) .....	40
文化人類学 (村武 慶) .....	40
自然分野	
自然科学概論 (篠原 正雄) .....	40
自然科学概論 (漆原 和子) .....	40
自然科学概論 (小島 道也) .....	40
自然科学概論 (宇和川 正人) .....	40
数学 (福田 賢一) .....	40
心理学 (板津 裕己) .....	41
心理学 (鈴木 順一) .....	41

## 保健体育科目

保健体育理論 (高橋 俊介) .....	42
保健体育理論 (田中 佳孝) .....	42
保健体育理論 (再クラス) (長濱 友雄) .....	42
保健体育理論 (再クラス) (森本 葵) .....	42

## 随意科目

比較思想特講 (佐々木 宏幹) .....	43
比較思想特講 (洗 建) .....	43
英会話Ⅱ (P. A. ベンディネリイ ・ J. G. ギャリソン・ T. J. コーガン ・ J. W. グリフィス・ M. ピアス) .....	43

英語 L L II (T. J. コーガン・大庭 直樹) .....	43
ドイツ語 F (松本 洋子) .....	43
ドイツ語 F L L (初級) (P. ジャコムツィ) .....	43
ドイツ語 F L L (中級) (松岡 晋) .....	43
フランス語 F (遠山 博雄) .....	44
フランス語 F L L (初級) (小玉 齊夫) .....	44
フランス語 F L L (初級) (M. マルタン) .....	44
フランス語 F L L (中級) (M. マルタン) .....	44
中国語 F (釜屋 修) .....	44
中国語 F L L (初級) (釜屋 修) .....	44
中国語 F L L (中級) (松本 丁俊) .....	44
スペイン語 F (M. アルマラス) .....	44
スペイン語 F L L (初級) (ホワン・ナバロ) .....	44
スペイン語 F L L (中級) (ホワン・ナバロ) .....	45
ロシア語 F (杉山 秀子) .....	45
ロシア語 F L L (初級) (池田 ガリーナ) .....	45
ロシア語 F L L (中級) (池田 ガリーナ) .....	45

## 基礎教育科目

経済学概説 (羽島 茂) .....	46
経営学概説 (鈴木 幸毅) .....	46

## 専門教育科目

簿記学 (片桐 伸夫) .....	47
簿記学 (中平 榮一) .....	47
簿記学 (長松 秀志) .....	47
簿記学 (木下 照藏) .....	47
簿記学 (東海 幹夫) .....	47
簿記学 (高木 克己) .....	47
経営学 (宮城 徹) .....	47
会計学 (渡辺 恵一郎) .....	48
経営史 (前田 和利) .....	48
経営管理論 (鈴木 幸毅) .....	48
企業形態論 (園田 哲男) .....	48
プログラミング論 (高井 徹雄) .....	48
プログラミング論 (西村 和夫) .....	48
プログラミング論 (和光 純) .....	49
原価計算論 (近藤 慎夫) .....	49
経済原論 (明石 博行) .....	49
近代経済学 (滝田 公一) .....	49
日本経済史 (北島 万次) .....	49
統計原論 (後藤 儀一郎) .....	49
民法Ⅰ (林 幸司) .....	50
商法Ⅰ (山田 泰彦) .....	50
経営学史 (北村 健之助) .....	50
アメリカ経営学 (宮城 徹) .....	50
経営財務論 (高田 光明) .....	50
経営労務論 (中村 真人) .....	50

経営技術論 (小野寺 孝一) .....	51
経営情報論 (加藤 武信) .....	51
経営科学 (和光 純) .....	51
公益企業論 (石井 彰次郎) .....	51
マーケティング論 (武田 康) .....	51
商業経営論 (森宮 勝子) .....	51
保険経営論 (石名坂 邦昭) .....	52
銀行経営論 (大岡 誠市) .....	52
国際経営論 (武田 康) .....	52
日本経営史 (斎藤 憲) .....	52
経営統計 (後藤 儀一郎) .....	52
上級簿記 (渡辺 恵一郎) .....	53
財務会計論 (久松 治夫) .....	53
管理会計論 (長松 秀志) .....	53
経営分析論 (片桐 伸夫) .....	53
税務会計論 (高木 克己) .....	53
会計監査論 (中平 榮一) .....	53
証券市場論 (柳澤 公正) .....	53
商業史 (山田 勝) .....	53
経済政策 (西山 司) .....	54
財政学 (速水 昇) .....	54
金融論 (石野 典) .....	54
国際経済論 (永田 智則) .....	54
国際金融論 (池田 健) .....	54
民法 II (上井 長久) .....	54
外書講読 (英) (木下 照嶽) .....	54
外書講読 (英) (高田 光明) .....	55
外書講読 (英) (山田 勝) .....	55
外書講読 (独) (百済 勇) .....	55
外書講読 (仏) (桑田 禮彰) .....	55
外書講読 (中) (松本 丁俊) .....	55
外書講読 (ス) (細川 幸夫) .....	55
外書講読 (口) (杉山 秀子) .....	55
商法 II (荒木 正孝) .....	56
労働法 (藤本 茂) .....	56

# 一般教育科目

## 人文分野

### 宗教学 I

池田 練太郎

宗教のもつ基本的な問題について考えた後、仏教の思想及び社会的側面について、歴史的展開を踏まえながら検討していこうと思う。

〔教科書〕『宗教学 I』（更生社）

### 宗教学 I

石川 力山

前期は宗教とは何かという課題について、世界の諸宗教を体系的にとらえた上で、個人と宗教、社会集団と宗教、国家と宗教等の問題について考えてみたい。

後期は、仏教についての基本的理解を深めた上で、アジア世界における仏教の様態について触れ、人間生活と宗教の問題について検討する。

〔教科書〕駒沢大学仏教学研究室編『宗教学 I』（更生社）¥1,950

〔参考書〕水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）

### 宗教学 I

伊藤 隆寿

仏教は、日本人にとって最も身近な宗教である。しかし、その仏教に対する正しい理解・認識をもつ人は甚だ少ない。本講座では、先ず第一に仏教の基本的な教え、立場についての理解を深めるようにしたい。その過程において、他の宗教や宗教に関する基礎的問題に言及することにする。尚、参考書として掲げた『宗教学 I』も随時使用するので、必ず入手されたい。

〔教科書〕奈良康明編著『仏教の実践』

### 宗教学 I

山内 舜雄

教科書を使用する。下記宗教学 I。一般宗教学の入門から、世界の諸宗教を概説して仏教に至り、特に大乘仏教について詳説する。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学 I』（駒沢書房）

### 宗教学 I (再クラス)

岡部 和雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）  
『仏教の歩んだ道 I』（東京書籍）

### 宗教学 I (再クラス)

奈良 康明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）  
『仏教のおしえ』（東京書籍）

### 宗教学 II

皆川 広義

はじめに、日本人の心に大きな影響をあたえてきた仏教について、教主釈尊の教えを中心に概説する。

次に、仏教のなかで、生活化された仏教といわれる禅について、その歴史を中国・日本へとたどりながら、思想や創造した禅文化について考究したい。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

## 宗 教 学 Ⅱ

椎 名 宏 雄

宗教学Ⅰで学習した基礎の上に立ち、仏教思想の中でも特に東洋的で超宗派的な多くの特長をもつ禅について、広い視野からの総合的な理解を目指す。

講義はノート筆記を主とし、(1)仏教と禅、(2)禅の歴史(3)禅の実践、(4)禅の思想、(5)禅と文化、(6)禅と経営、の順に進める。学習とは、みずから理解し身につけることであって、試験のために暗記することであってはならない。したがって、講義の中で、随時に関連したテーマをとりあげ、現実の問題として学生諸君とともに考えてゆきたい。坐禅の実習も行なう。

〔参考書〕適宜紹介する。

## 宗 教 学 Ⅱ

佐々木 章 格

すでに宗教学Ⅰにおいて、宗教の概説、インド・中国・日本の仏教を学んだことと思う。この宗教学Ⅱにおいては、さらにすすんで日本文化にも多大の影響を及ぼしている「禅」について探究する。

禅は理論も知らなければならないが、同時に生活の上に実践できなければ意味がない。今日、一般の人々が仏教とりわけ禅に寄せる関心の高さには驚かされるものがある。

ここでは、「禅」の概要および中国・日本における禅宗の歴史と変遷を、その時代時代の禅者を通して考えながら学び、思想的理解を深める。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

## 宗 教 学 Ⅱ

白 金 昭 文

### 1. 宗教としての禅

- (1) 釈迦の教えと禅
- (2) 禅と人間・生活・文化

### 2. 禅の歴史に学ぶ

- (1) 禅宗の祖ダルマの教え
- (2) 禅の思想
- (3) 禅の日本的展開 — 道元と瑩山
- (4) 禅と現代

### 3. 禅の体験 — 座禅実習

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

## 哲 学

榊 原 哲 成

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の獲得にも努める。

〔教科書〕その都度指示する。

## 論 理 学

久 保 陽 一

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得に努める。

〔教科書〕その都度指示する。

## 倫 理 学

國 嶋 一 則

倫理学は、われわれがいかに生き、何を行為すべきかを探究する学問である。つまり、人間の行為に関する哲学である。人間として正しい行為とか、真実の行為とか理性的行為といわれるものは、

人生の原理（人生観）や世界の原理（世界観）に従った行為である。日常の人生観や世界観は、動揺して確実なものではないから、古代から現代にいたる主な哲学者たちの思想を研究して、各自の確実な人生観や世界観の確立に努める。

〔教科書・参考書〕その都度指示する。

〔教科書〕山口嘉三・大久保治男編『法学要説』（芦書房）  
大久保治男・茂野隆晴・櫻井一成共著『現代法学』（高文堂出版社）

〔参考書〕適宜指示します。

## 文 学

島 田 伸一郎

『万葉集』の歌を、その詠まれた時代・社会・風土・民俗などについて考察しながら読み、そこに托されている作者の心にふれてゆく。

〔教科書〕小野寛校注『万葉集抄』（笠間書院）  
¥1,000

## 歴 史 学

茂 澤 方 尚

中国古代史、特に先秦時代の西北方の少数民族の動向を軸に、甲骨金文及び詩経、楚辞、春秋左氏伝、史記等の史料を使って講述する。その際、基本的な史料の解題を行う。

〔参考書〕その都度、適宜に指示する。

## 社 会 学

岩 上 真 珠

個人は、社会に生み込まれ、社会の一員としてさまざまな社会現象に遭遇する。講義では、家族、近隣、学校、職場といった個人が出会う身近な現象を、誕生から子ども時代、青年期、成人期、老年期を経て死に至る個人の生活史に即して、考察してみたい。講義を通して、個人にとって社会とは何かを理解する“社会学の眼”を養ってもらうことを目指す。

〔教科書〕講義の最初に指示する。

〔参考書〕授業中、適宜指示する。

## 地 理 学

中 島 義 一

地理学の諸分野のうち、日本の歴史地理に重点をおいて講義する。下記の教科書のほか、地図帳（高校生の時に使ったものでよい）を忘れずに持ってくること。

〔教科書〕矢守一彦『空から見た歴史景観』（大明堂）¥2,200

## 社 会 分 野

### 法 学 憲 法

茂 野 隆 晴

平素の日常民活のなかでは余り意識されることがないかもしれないが、われわれは多種多様な法制に囲繞されており、ときにそれによって重大な影響を被ることも少なくない。こうした状況のもとで、正しい法知識、法的素養を身につけることは必須の要件といってよい。

法律は、ともすれば無味乾燥なものとして理解されている向きがある。そこで、成るべく身近な問題に照して平易に講述していく。

講義は、前半で、わが国の法制の歴史の変遷、現代国家の仕組みなどを概観したうえで、現代法の特性に及ぶ。後半では、教養としての憲法を念頭におき、憲法全般の解釈をおこなう。

### 統 計 学

日 下 泰 夫

統計学は経営、経済等の諸問題を解決する1つの有力な手法であり、広範な領域で利用されている。本講義では、統計学の基本的な考え方を例題をまじえて説明する。特に、理解を深めるための演習に力を入れたい。さらに、この分野でコンピュータがどの様に利用されるかを理解するための「パソコンによる演習」（度数分布法、正規乱数の発生、確率分布の計算、モンテカルロ・シミュレーション等）も行う。

1. 統計学の歴史 2. 統計的方法の本質 3. 記述統計 4. 標本空間と確率 5. 確率変数と確率分布 6. 母集団と標本 7. 推定 8. 検定 9. 相関 10. 帰帰

〔教科書〕P.G.ホーエル

(浅井 晃・村上正康共訳)  
『初等統計学』(培風館) ¥1,530  
〔参考書〕開講時に紹介する。

## 文化人類学

小川 順 敬

文化人類学は様々な文化の比較・研究を通じて、「人間の理解」を旨としています。講義では、文化人類学の目的や特色、基本的な考え方を、「社会構造」「文化とパーソナリティ」「宗教と世界観」などの問題を検討していく中で、明らかにしていきたい。

## 文化人類学

村 武 慶

私達は、ややもすると、自分達の生活様式、家族・親族の形態、自分達の宗教を最高のものと思いがちであるが、必ずしもそうではないことを、いろいろな民族、社会を比較して学んでいきたい。

〔教科書〕『文化人類学を学ぶ』(有斐閣選書)

¥1,100

〔参考書〕『文化人類学』(有斐閣双書)

## 自然分野

### 自然科学概論

篠原 正 雄

「人間はいかにして宇宙の中に生まれたか」

20世紀前半の自然科学は、原子が素粒子から成ることや、我々の銀河系の外にも無数の銀河のあることを発見した。今日では、素粒子を構成するクォーク粒子の性質が研究され、我々の宇宙の外の無数の宇宙につき議論されている。また、分子生物学や太陽系探査の成果を加えて、地球史・生物史の認識も深まった。

この講義では、「宇宙人はいるか?」という問いを携えながら、「素粒子の中から宇宙の外まで」「宇宙の誕生から人類の出現まで」、現代の自然科学が招く自然像を、研究史を交えながら展開する。

〔教科書〕八杉龍一『図解 科学の歴史』  
(東京教学社) ¥1,700

### 自然科学概論

漆原 和 子

自然科学の歴史を通して、これまで人類が自然にどのように接してきたかを説明する。さらに現在、高度の科学・技術をもって人類が自然へ働きかけることによってどのような問題をかかえているか考察する。

### 自然科学概論

小島 道 也

広範囲な自然科学の分野のうち前期では特に食物にしぼってその自然科学的な面だけでなく経済とのかかわりについても講義する。

後期は土壌を材料として自然科学的思考法を理解させようとする。

〔教科書〕小島道也・伊東 正編著

『食べ物の科学』

(日本放送出版協会) ¥750

山根一郎・大向信平著

『農業にとって土とは何か』

(農山漁村文化協会) ¥1,000

### 自然科学概論

宇和川 正 人

自然環境と資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発と人類とのかかわりあいについて考察する。

〔参考書〕その都度紹介する。

### 数 学

福田 賢 一

現代数学の概念、方法を社会科学との関連、应用到に力点をおき解説する。内容は次のとおりである。

(1)論理 (2)線形代数 (3)解析 (4)確率・統計予備知識は特に必要としない。

〔教科書〕『新しい数学』(東京教学社)

¥1,400

## 心 理 学

板 津 裕 己

心理学は、人間の諸行動を科学的に研究することによって、「人間とは何か」さらには「自分自身」を明らかにしていこうとする学問である。本講義では、まず心理学研究の輪郭・歴史について述べ、その後感情・欲求・パーソナリティ・社会的行動などいくつかの研究領域について話を進めていくつもりである。

〔教科書〕中村昭之編著『心理学概説』

(八千代出版) ¥1,500

## 心 理 学

鈴 木 順 一

心と行動の科学であろうとしている心理学は、人間行動を予測し制御しようとする行動科学や、自己を理解し自己を制御しようとする臨床的アプローチ等として発展しつつある。本講座では、主として臨床心理学やパーソナリティ心理学を中心に、カウンセリングや心理療法を体験実習しながら、自己をみつめ自己を知りセルフ・コントロールできるよう自己成長をめざしてグループ学習を進める。集団学習上、次のルールを守らねばならない。①欠席をしないこと。②時間を守ること。③私語をしないこと。最初の授業で述べる学習方針を良く理解し、自己の責任において主体的に選択すること。自己をみつめ探究している求道者のみが受講されんことを希望する。

〔教科書〕特に指定しません。

〔参考書〕『心理学概説』(八千代出版)その他は、その都度授業内で指示します。

# 保 健 体 育 科 目

## 保健体育理論

高 橋 俊 介

「身体のための教育」 「運動の別名」  
「運動による教育」 「ボールゲーム」  
「今日の体育運動のおいたち」 「技術学習」  
「健康の面から起った運動」  
「なぜ運動は必要か」  
「運動をすると身体にどんな影響をあたえるか」

## 保健体育理論

田 中 佳 孝

日常生活及びスポーツ・レクリエーション時に於ける傷害の救急処置法。並びに健康な生活をする為に必要な栄養学的知識について、食物とビタミンを中心に講義を行なう。

## 保健体育理論（再クラス）

長 濱 友 雄

科学技術の発達と共に人間はだんだんと身体を動かすことが少なくなっている。医学の進歩とともに寿命も大巾にのびて高齢化社会をむかえている現在、我々はそれにどのように対応し、健康で有意義な生活を送るために体力を高めなければならないと考えるが、そのための方策について講義を進める。

## 保健体育理論（再クラス）

森 本 葵

### 体力づくり

- 〈若年層における体力づくりの必要性〉
- 〈体力のメカニズム〉
- 〈体力づくりの方法〉
- 〈体力づくりにかかわる疲労の問題〉
- 〈疲労の判定法〉

### オリンピックゲーム

- 〈歴 史〉
- 〈問題点〉
- 〈その将来〉

〔教科書〕『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕『スポーツ・トレーナー教本』  
（日体協）

# 随 意 科 目

## 比較思想特講

佐々木 宏 幹

欧米とアジアの思想を巨視的に取り扱った諸文献を取りあげ、内容を紹介するとともに、アジアの諸民族と文化、とくに宗教文化に重点をおき、日本人の思考や行動の様式に見られる諸特徴を比較文化論的に考察したい。

## 比較思想特講

洗 建

法律と宗教のかかわりについて考察する。法律が規範の体系である以上、社会で主要な伝統となってきた宗教の世界観や人間観と無縁ではあり得ない。東西の宗教文化と日本の近代法をめぐる問題について考える。

〔参考書〕 随時指示する。

## 英 会 話 II

J. K. ウェルズ・J. G. ギャリソン  
T. J. コーガン・R. B. シェリー  
J. W. グリフィス・M. ピアス

全学で6クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認し、詳しくは教場で教師の説明に従って下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

## 英語LLII

T. J. コーガン・大 庭 直 樹

英語LLIのアドバンスト・コースとして全学で3クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語LLIを履修しなかった学生も参加し履修できるようにしてあります。

(大庭) 前半は英語を耳で聞いて理解する力を集中的に訓練し、後半はTOEFL, TOEIC等の問題に挑戦する。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

## ドイツ語F

松 本 洋 子

ドイツの第三帝国に関する論文、またはドイツ新聞(Die Zeit, Neues Deutschland, Die Frankfurter Allgemeine)の論評などを読みながらドイツ語の読解力をつけて行く。同時にドイツの歴史、社会についての理解を深めて行きたい。テキストはプリントで配布する。

## ドイツ語FLL(初級)

P. ジャコムツィ

生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話ができるようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

## ドイツ語FLL(中級)

松 岡 晋

本講義はFLL(初級)終了者を対象とするが、時間割りその他の都合でそれを未履修の学生も、もちろん受講できる。また初級・中級の両方を同時に履修してもかまわない。

教材は、カセット・テープを予定しているが、受講者の希望により変更する場合もありうる。ドイツ語のヒアリングと基本的構文を用いての会話能力を習得したい意欲的な学生の受講を希望する。

## フランス語 F

遠山博雄

前期については語学のレベルを中級から上級に引き上げることを第一目的とし、フランス語の文章を欲張らずにじっくりと読んでいきます。テキストは参加する学生諸君の希望を聞いてから、また所属学部を考慮にいれて、第一回の授業の時に決定します。後期に関しては、前期授業による語学知識の深化をふまえて、再度学生諸君と相談の上教材を選択するつもりです。

## フランス語 F L L (初級)

小玉齊夫

ビデオ教材を用いて、一年間で何とか「初級」のフランス語が話せ、聞きとれるようになります。文法は、知識としては、有ったほうが有利でしょうが、特に重要とは言いきれません。ふだんと同じような、日本語を話したり聞いたりするのと同じ調子で、授業に(休まず)出てきて、声を出していれば、おのずからフランス語での「おしゃべり」の基礎がつくられていく、はずです。初心者でも参加できるような授業内容にするつもりです。  
〔教科書〕開講時に指示します。

## フランス語 F L L (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。  
〔教科書〕『Entrée Libre』

## フランス語 F L L (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聴きとり、及び表現の練習をします。  
〔教科書〕『Avec Plaisir!』

## 中国語 F

釜屋修

中国語一年以上履修者を対象とする。最近の中国文学作品を精読しつつ、現代中国の民衆像についてともに考えていく。  
〔教科書〕開講時にプリント配布  
〔参考書〕その都度紹介する。

## 中国語 F L L (初級)

釜屋修

中国語を一年間履修したもの、あるいはそれと同等の学力を有するものを対象とし、日常初級会話を中心に、口語基本表現形式の習得をめざす。ビデオ教材使用。  
〔教科書〕開講後指示する。  
〔参考書〕開講後指示する。

## 中国語 F L L (中級)

松本丁俊

中国語 F L L 初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。  
〔教科書〕必要に応じて教場でプリントを配ります。

## スペイン語 F

M. アルマラス

正規授業の1・2年次でスペイン語を修了した学生を対象にフリーオーキングの形式で、スペイン語圏世界の文化・政治・風俗・社会の現状を、新聞その他の教材を利用して授業を行います。  
〔教科書〕特に指定しません。

## スペイン語 F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

## スペイン語F L L（中級）

ホワン・ナバロ

前年度L L初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

## ロシア語F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力を身につけるための平易な読みもの——最新版のアガニョーク、諷刺漫画（クロコディル）、スポーツニクなどをさまざまな角度からとりあげ、同時に現代ソ連におけるペレストロイカの動向を探っていきたい。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

## ロシア語F L L（初級）

池田 ガリーナ

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕『標準ロシア語入門』（白水社）

## ロシア語F L L（中級）

池田 ガリーナ

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独得な生の言いまわしや、日常会話のイントネーションや、平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に準備したい。

〔教科書〕『標準ロシア語入門』（白水社）

# 基礎教育科目

## 経済学概説

羽 島 茂

経済学の基礎的な知識の修得が目標です。できるだけ日本経済の具体例に則して講義したいと考えています。

〔教科書〕 開講時に指示します。

〔参考書〕 講義中に紹介します。

## 経営学概説

鈴 木 幸 毅

講義は次の項目に従って行なう。

1. 経営学の対象
2. 経営学の展開
3. 組織管理
4. 経営計画と経営戦略
5. 財務管理
6. 労務管理
7. 企業の発展と多国籍化
8. 企業の社会的責任
9. 「日本的経営」

〔教科書〕 鈴木幸毅著『企業と管理の理論』

(税経) ¥1,700

(多少変更の可能性有り)

# 専 門 教 育 科 目

## 簿 記 学

片 桐 伸 夫

簿記とは「帳簿記入」の略語であり、読んで理解する学科ではなく、文字どおり、記帳訓練によってその技術を体得する学科です。したがって、受講生は常にレポート提出が要求されることを前提として受講下さい。

〔教科書〕開講の時指示します。

## 簿 記 学

中 平 榮 一

複式簿記の原理について詳説する。また、講義のプロセスにおいて、商企業の複式簿記の記帳演習問題を出来るだけ数多くとりあげてゆきたい。

## 簿 記 学

長 松 秀 志

簿記学は会計学、原価計算論、管理会計論その他経営学部の開講科目を学習するうえで重要な基礎科目であるので出席を重視する。

〔教科書〕学年始めに指示する。

〔参考書〕学年始めに指示する。

## 簿 記 学

木 下 照 嶽

この講義では、会計学および経営学系統の学習にとって欠くことのできない、簿記の基本的な原理を理解することに重点をおく。記帳練習、小テストおよび数的処理（計算力）が要求される。分り易く講義することを第1の目的としているが、学生諸君は全出席を念頭に真面目に勉学してほしい。計算機を毎時間持参すること。

〔教科書〕武田安弘編著『最新簿記精説』

〔上巻・基礎編〕（創成社）

## 簿 記 学

東 海 幹 夫

企業会計システムからアウトプットされるデータの理解と適切な運用なくして、企業を合理的に経営していくことは不可能である。複式簿記のシステムは、企業の外部および内部からの要請に基づいて考案された社会的制度的な計算技術である。

本講座は、この複式簿記の基本原理を習得してもらうためにある。講義は、一回一回の積み重ねによって総合的な理解を得てもらうように進められるから、学年末にまとめて勉強することは出来ない。必ず出席してその場でマスターして欲しい。

〔教科書〕東海幹夫編著『情報化社会の簿記会計知識』（東京経済情報出版）

## 簿 記 学

高 木 克 己

企業会計において、簿記は経営活動の結果を帳簿に記録し、その事業の成果を明らかにするための会計技術的な側面を有している。そこで、簿記の基本的概念や簿記一巡の手続から、より高度な応用段階までを体系的に講義を行う。また、講義全般を通じて、より多くの問題を自らの手で解く機会を設けるため、記帳演習や小テストには力点を置く。なお、テキストは開講時に指示する。

## 経 営 学

宮 城 徹

まず第1に、経営学とは何か、という根本問題について、英語圏、ドイツ語圏、および日本の動向をふまえて考えていく。第2に、経営学の歴史についても同様に英語圏とドイツ語圏を中心に、現在の理論的問題意識との関連で講義する。第3

に、経営学の内容については、特に、経営者論、企業形態、組織論、戦略論などを中心に、今日の問題状況をとり込んで明らかにしよう。最後に、現代経営学が、現在の経営問題（日本の経営、企業の国際化、企業文化、ベンチャービジネスその他）にどのように対応しているかを明らかにしようと思う。

〔教科書〕鈴木英寿編著『経営学総論』（第2版）（成文堂）1989年、¥2,700

## 会計学

渡辺 恵一郎

1年次の「簿記学」を基礎に、企業経営を計数的（貨幣的）に表現することの意味内容、方法などを考えさせる。具体的には、会計の基本的諸概念やわが国の会計制度に関する知識を修得して、企業活動の会計記録から財務諸表の作成に至る過程を理解できるように講義する。

〔教科書〕染谷恭次郎『会计学』（改訂版）（中央経済社）

〔参考書〕『体系会計諸則集』（白桃書房）

## 経営史

前田 和利

経営史は「企業経営とは何か」について史的に答えていくことに研究の意義がある。講義では、経営史学の課題と方法を検討し、そのうえにたって事例研究をふまえて、企業経営の一般的発達史を論ずる。その際、経済過程や文化構造と関連させながら、企業経営者のタイプ、経営形態、企業形態、組織と管理などの問題に焦点をあてる。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。

## 経営管理論

鈴木 幸毅

テイラーの「科学的管理」とその現代的展開を説明して伝統的管理論の構造と特質を明らかにし、「人間関係論」から「行動科学的管理論」への発展を跡づけ、さらに「近代管理論」および「現代理論」を追求する。

〔教科書〕鈴木幸毅著『現代組織理論』（税務経理協会）¥2,900

〔参考書〕鈴木幸毅著『バーナード理論批判』（中央経済社）¥2,000

## 企業形態論

園田 哲男

本講は、まず経営形態と企業形態の意義の区別を理解させ、その上で経営形態の発展過程を制度的に考察し、今日の企業制度の本質を理解させることにある。特に株式会社の特質と機関、および資本形態について解説して行く。

〔教科書〕車戸 実編『企業形態論』（八千代出版）¥3,200

〔参考書〕講義中に紹介

## プログラミング論

高井 徹雄

高度情報化社会といわれる今日、コンピュータの利用は、経営現場において欠かせないものとなってきました。本講義では、実習形式の授業を通じて、コンピュータ利用の素養を身につけて頂くことを狙いとして、

- (1) 前期は、まず計算機に慣れて頂くために、取扱いの比較的容易な、表計算データベースソフトによるデータ処理法の学習をします。
- (2) 後期は、構造化言語PASCALによるプログラミングの基礎、及び初歩的な応用について勉強します。

〔教科書〕開講時に指示します。

〔参考書〕プリントを使用する他、講義中に適宜紹介します。

## プログラミング論

西村 和夫

初心者を対象として、パソコン利用の基礎から体験的に学習し、プログラミングの基本的な考え方を学習します。具体的な内容は次の通りです。

- (1) コンピュータの基本的な構造と用語。
- (2) 表計算ソフトの使い方と応用。
- (3) プログラム言語Pascalを使用した実用的なプログラミング手法。

以上の内容から、データ構造、制御構造、問題解決の方法、誤りを取り除く方法などについても学習します。

〔教科書〕開講時に指示します。

〔参考書〕プリントを使用します。

## プログラミング論

和 光 純

本講義は、パソコン実習を通じて、経営活動におけるコンピュータの利用・活用法の基礎を学ぶことを目的とする。

前期は、表の集計から科学技術計算まで幅広い力を発揮する表計算ソフトウェアを用いて、データ処理の方法を学ぶ。

後期は、計算機言語PASCALを用いて、プログラミングの基礎を学び、コンピュータに一連の作業を行わせるとは、どのような命令を構成して実行させることなのかを理解する。

〔教科書〕開講時に指定する。

〔参考書〕講義中に適宜紹介する。

## 原価計算論

近 藤 禎 夫

1990年度においては、下掲のテキストにより以下に示す内容を講義する。

1. 資本制的原価計算の役割とその考え方
2. 原価計算の概要
3. 原価の費目別計算
4. 原価の部門別計算
5. 個別原価計算の方法
6. 総合原価計算の方法
7. 標準原価計算
8. 経営計画と原価計算
9. 社会主義の原価計算方法
10. 原価計算の歴史

〔教科書〕敷田礼二編著『新しい原価計算論』  
(中央経済社)〔1988年〕

〔参考書〕敷田礼二・近藤禎夫著『原価公開』  
(新日本出版社)

## 経 済 原 論

明 石 博 行

本講義では、資本制社会の経済的な諸関係と諸運動法則について、概説的な理論的説明をおこなう。主たる内容としては、商品・貨幣および資本にかんする説明を主軸として、物象化と疎外、雇用と失業、富裕と貧困、階級と階層といった諸問題にかんする説明を、歴史的な変化の過程をふまえて、体系的・系統的におこなう予定である。

講義は、従来の教科書とは異なった体系構成を

念頭において進め、いくつかの新たな論点を導入する。したがって、部分的にはやや高度な論点にもふれざるをえない。しかし、全体としては、できるだけ平易で、現代の経済社会の理解に役立つ講義とするよう努力したい。

〔教科書〕教科書は使用しない。

〔参考書〕開講時に指示する。

## 近代経済学

滝 田 公 一

本年度は「産業組織論」の入門的講義を行います。講義内容は以下のとおりです。

1. 産業組織論とは？
2. 競争と独占の厚生経済理論
3. 産業構造の決定要因
4. 寡占産業の経済理論
5. 寡占産業における協調要因
6. 寡占産業における非協調要因
7. 寡占と独占の動学理論
8. 垂直的統合の理論
9. 価格差別の理論
10. 製品差別化と市場構造
11. 情報と戦略的行動
12. 非協力ゲームの理論

〔教科書〕開講時に指示します。

## 日本経済史

北 島 万 次

日本における幕末・明治維新期の経済変動を中心に講義する。

## 統 計 原 論

後 藤 儀 一 郎

統計学は経営学や経済学は言うにおよばず、医学、社会学、自然科学などの各方面で広く用いられている。およそ実証研究しようとするとき、統計学の知識なしにできる場合というものは少ない。

統計学とは何か、統計学的考え方をどのようなものかについて、学習する。

〔教科書〕吉野・後藤『現代統計解析』(芦書房)  
¥2,700

## 民法 I

林 幸 司

民法典のうち第一編「総則」・第二編「物権」・第三編「債権」、いわゆる『財産法』と呼ばれる分野を対象とし、その基本的な構造の理解を目的とする。

また本講義では、重要な法律制度や権利・義務が「受講生自身の日常生活とどのように密接に結びついているか」を実感できるように留意し、『鶴呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもらえるよう努力していきたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

## 商法 I

山 田 泰 彦

株式会社法を中心に講義します。株式会社の法構造を法体系に沿って講義し、法と現実とのギャップについても注意したいと思います。

〔教科書〕荒木正孝『商法講義（総則・会社法）』（成文堂）¥2,300

## 経営学史

北 村 健之助

ドイツ経営経済学（前史、成立、1・2・3・4次方法論争、現代の経営経済学）およびアメリカ経営学（成行管理、科学的管理法、管理過程論、行動科学的展開）等々の発展過程を現代経営学を軸に探り、経営学の基本問題に迫ることができればと思います。テキスト、参考書は一応下記に示しましたが、必要があればその都度他の参考書をお勧めする積りです。

〔教科書〕藤芳誠一『図説 経営学』（学文社）

## アメリカ経営学

宮 城 徹

経営学がすこぶる間口の広い学問であることは否定しえない。こうして、アメリカ経営学における教科編成という観点からみれば、そこには多様な領域がカバーされるのではなくてはならない。この講座では、こうしたいわば多面的特徴をもつ、

アメリカ経営学のはほぼ全体的な姿を明らかにする、という趣旨で、最も先端的展開としてのプロパティ・ライツ理論に重きを置きつつ、かんたんに表現すれば、少なくとも、以下の項目を順次とりあげ講義を進めるつもりである。

(1)制度・新制度学派 (2)伝統的管理論 (3)意思決定理論 (4)企業の性格 (5)企業の経済的側面と組織的側面の統合化への傾向 (6)情報コスト (7)取引費用その他

〔参考書〕宮城 徹『企業の政治理論序説』（税務経理協会）¥3,200

## 経営財務論

高 田 光 明

財務とは、資本の調達と運用をいう。経営財務論は、企業という組織体におけるこのような財務を研究対象とする学問である。企業が資本を調達するのは、利益を生み出すことを目指して、調達資本をできるだけ効率的に運用するためである。しかし、資本運用の効率性は、企業が、いかに資本の運用に合わせた資本の調達を行えるかに制約される。資本の運用あつての調達であるからといって、そのことは、資本の調達面の意義が小さくなることを意味してはいないのである。この授業では、以上のような問題意識のもとで、基礎的な事からを中心に、理解を深めるために適宜具体例も取り入れて講義するつもりである。

〔教科書〕中原章吉編著『企業財務と管理会計』（中央経済社）

## 経営労務論

中 村 眞 人

経営労務論は、企業経営における労働・労働力・労働者の諸問題を研究する学問である。特に、個別企業の労務管理および労使関係の理論・歴史・実態の解明をめざす。

本講では、まず、企業労働に関する諸概念、労務管理と労使関係の歴史的発展などにつき概説する。つぎに、賃金、労働時間、雇用管理、労使関係、その他について各論を解説する。最後に、以上の知識をふまえた上で、現代日本における企業労働の具体的な諸問題を取り上げる予定である。

講義の中では、現実の諸事例にも、適宜、言及していく。

## 経営技術論

小野寺 孝 一

下記の章節に示した内容によって講義する。その際、資料として『経営技術論』その他を使用する。資料としてということは、『経営技術論』の章節に従って講じてゆくのではなく、それを引用するなど、資料として使うという意味である。従ってこの資料を見ていなくては、講義を理解することは出来ない。

- 1 技術の機構
- 2 技術の資本制経済の本質  
(技術論：労働手段説)
- 3 経営と技術論
  - 1 経営経済学と技術論
  - 2 マネジメントと技術論
- 4 建物経営と技術論

〔参考書〕小野寺孝一著『経営技術論』  
(白桃書房)

## 経営科学

和 光 純

企業の経営、或いは一般に組織の運営における意思決定の状況を数学的手法により客観的にとらえ分析し、よりの確な意思決定を下すための基礎理論を提供しようとする体系が経営科学である。

本講義では、経営科学を形成する理論として、線形計画法、輸送問題、在庫問題、ゲーム理論、プロジェクト管理、及び、経営とコンピュータ等について論じたい。各回ごとに簡単な演習問題をしていねいに解き、数学的分析手法の理解が深まるように努めたい。下記の本を参考書とし、特に教科書は指定しない。

〔参考書〕福田治郎・児玉正憲・中道 博共著  
『OR入門～はじめて学ぶ人のために～』(多賀出版) ¥2,781

## 経営情報論

加 藤 武 信

経営管理におけるMIS(経営情報システム)の特質、構造および機能について、理論と技術の両側面から考察する。すなわち、①MISの基礎、②MISの理論と技法、③MISの役割のそれぞれに関する内容、特徴および問題点を明らかにする。

現在、ME(マイクロエレクトロニクス)による技術革新が急テンポで進行し、その基盤に支えられた高度な情報化社会が到来しつつある。OA(オフィスオートメーション)の進展や第5世代コンピュータの開発計画により、企業における情報システムの構築内容がどのように変化するのか、現時点で我々はどのような対策を講じるべきか等について検討を試みる。

〔教科書〕長松秀志著『経営情報システム』  
(白桃書房) ¥2,900

〔参考書〕経済企画庁国民生活局編『情報社会と国民生活』(大蔵省印刷局) ¥950  
現代技術史研究会編『コンピュータ問題入門講座』(技術と人間) ¥1,200

## 公益企業論

石 井 彰次郎

1. 公益企業概念の成立
2. 公益企業の先駆形態
3. 競争と独占
4. 政府の規制
5. 公共企業体

以上のテーマの下、理論的・歴史的観点より説明を行う。

〔教科書〕講義において指示する。

## マーケティング論

武 田 康

現代マーケティング論は経営システム論をベースとしてアメリカにおいて体系化された戦略経営論である。講義ではそれが発達を遂げた背景のアメリカの経済社会環境との関連において理論的体系を明らかにしてゆくこととする。

〔教科書〕武田 康『整合戦略の経営』(創成社) ¥3,200

## 商業経営論

森 宮 勝 子

商業経営論とは、生産者と最終消費者との中間

にあって、商品もしくはサービスを購入・販売することを業とする中間商業者（卸売業者・小売業者）の活動をその研究対象とする。低経済成長下の今日、商業経営も減量経営を余儀なくされており、新たな対応が求められている。又、所得水準の高度化にともなう消費欲求の多様化、高級化により消費者の的確な把握は、ますます難しくなりつつある。このような環境下において、商業経営は、いかに行われるべきかを小売業を中心に立地分析、店舗管理、商品政策、仕入政策、商品管理、販売管理等の諸領域より検討する。

〔教科書〕宇野政雄著『新小売マーケティング』（実教出版）¥2,100

〔参考書〕梅沢昌太郎著『小売経営戦略』（同友館）¥2,300

### 保険経営論

石名坂 邦 昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中において高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においては、いかに各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際の問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕石名坂邦昭『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房）¥2,500

### 銀行経営論

大 岡 誠 市

金融の自由化・国際化が急速に進展しているなかで、どのような対応をしていくかが今後の銀行経営の課題になっている。

わが国の銀行をとりまく環境のこのような大きな変化と欧米の銀行の動きに注目しつつ、銀行経営にかかわる基本的な事から中心に取り上げることとし、金融関係の時事問題については随時解説することとする。

また、金融自由化により新しい金融商品が次々と開発されてきたが、今後登場するものを含め逐次触れることとする。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕全国銀行協会連合会調査部編『図説わが国の銀行』（財経詳報社）¥1,700

### 国際経営論

武 田 康

国内経営と国際経営の相違に焦点をおき、直接投資に関する諸問題の理論的側面を探究するとともに、日米両国の多国籍化の類型を歴史的視点から比較し、総合商社をはじめ、日本型国際経営の特質の解明を内容とする講義とする。

〔教科書〕武田 康『国際経営の基礎的諸問題』（白桃書房）¥2,900

### 日本経営史

斎 藤 憲

本年度は、日本経営全般の歴史的発展過程を概説したい。江戸時代の鎖国の中で独自の文化を育てていった日本は、明治時代以降西欧から科学技術と組織上の諸制度を積極的に取り入れ、工業化を追求する一方、自身の非欧米的な精神を保持して、導入した科学技術や諸制度と融合させ、発展させてきたといわれている。これが所謂「日本的経営」を形成する土壌となるが、現在、国際的激動の過程で問われている日本人の経営を再検討し、合わせて将来を考えるために、江戸時代以降の経営全般の動向を考えてみたい。

〔教科書〕J. ヒルシュマイヤー・由井常彦『日本の経営発展』（東洋経済新報社）

### 経営統計

後 藤 儀一郎

統計学、特に推測統計学の知識は経営学あるいは経済学の分野においても広く用いられている。統計学はもはや資料の収集とそれを表や図で表わすだけのものでない。不確実性と危険を含むあらゆる状況を理論的かつ組織的な方法で考察する。推測統計学の理論を学びながらそれらが実際においてどのように応用（例えば統計的品質管理、時系列分析、線形計画等）されるかを、学習する。

〔参考書〕吉野・後藤著『現代統計解析』（芦書房）¥2,700

## 上級簿記

渡辺 恵一郎

1年次の「簿記学」を基礎に、その応用能力を養い、簿記の理論を、問題解答、解説により展開する。各種の簿記検定試験や国家試験（公認会計士、税理士など）に挑戦する意欲のある人々が受講するように希望する。なお、授業時間には、指名、割当制により問題解答をしてもらう。

〔教科書〕開講の時に指示する。

〔参考書〕『体系会計諸則集』（白桃書房）

¥2,000

## 財務会計論

久松 治夫

外部報告会計としての財務会計を研究する場合、わが国の財務会計を規制する2つの基本的規則、すなわち「財務諸表規則」と「計算書類規則」に関連させつつ、財務会計の基礎を把握することが必要であり、このため、本年度の講義は下記の教科書を使用し、財務会計の基本問題について講述する予定である。

〔教科書〕山形休司著『財務会計総論』

（中央経済社）¥2,300

〔参考書〕開講時に指示する。

## 管理会計論

長松 秀志

情報化・FA化のもとにおける現代管理会計について講義する。本年度はとくに、自動化されたFA工場の製造システムの問題を中心に講義を進めていく。

〔教科書〕P. J. オグレディ著 長松秀志・加藤武信訳『自動生産システムの計画と管理』（白桃書房）

〔参考書〕学年始めに指示する。

## 経営分析論

片桐 伸夫

経営分析の方法を大略、以下の要領で講義する予定ですが、特に伝統的、基本的方法である収益性、流動性の分析にポイントを置きます。

1. 収益性分析
2. 流動性分析
3. 生産性分析
4. 成長性分析

〔教科書〕開講の時指示します。

## 税務会計論

高木 克己

我々が社会生活を送っていく上で、一生逃れることが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし、企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを、広範な事例を解説しながら講義を進めて行くが、随時、我々個人の日常的な問題である所得税法についてもふれていくことにする。なお、テキスト、参考書は開講時に指示する。

## 会計監査論

中平 榮一

主として、独立監査人による財務諸表監査の問題をとりあげて、詳しく講述する。なお、当然、監査役監査及び内部監査の基本的問題についても論及する。

## 証券市場論

柳澤 公正

わが国の証券制度、証券市場について説明するとともに、証券市場と現実の経済の動きとの関連を考察してゆく。

〔教科書〕『図説 日本の証券市場』

（財経詳報社）¥1,400

## 商業史

山田 勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人（社）を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降

とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

## 経済政策

西山 司

本年度の経済政策の講義は、経済政策の理論および経済政策の史的展開過程の解明を中心に、各国で実施されている現代の経済政策についても論述する予定である。

特に「価値判断」論争をめぐっての諸問題点や、従来の経済政策論の主要な学説を検討するとともに、経済学体系における経済政策論の理論的位置を論究し、その果すべき課題を究明して、経済政策論の体系的な解明をおこなうように努める。

〔教科書〕清水・松原編『経済政策論を学ぶ』

〔新版〕（有斐閣）

## 財政学

速水 昇

税制改革等をめぐって「財政」に対する関心が、今日ほど高まったことはかつてなかったといっても過言ではない。しかし、そのことによって「財政学」に対する理解が飛躍的に増大したとは残念ながら言いがたい。そこで、財政理論の叙述を現実との係りでとらえて、身近かな問題として理解させ、国民経済学的視点や金融との関係をも含めて検討していく。

〔教科書〕藤原碩宣・速水 昇他著『財政と経済』（学文社）¥2,500

## 金融論

石野 典

今日の経済において金融の果す役割は大きい。初歩的な金融の知識から出発して、複雑な現実の金融現象が理解されるように広範囲な内容を講義する予定である。

(1) 金融の意味と金融システム。

(2) 貨幣とその需給。

(3) 金利の決定とその諸問題。

(4) 貨幣市場と資本市場

—日本とアメリカを中心に—

(5) 金融機関

(6) 金融イノベーションの現況と展望。

講義はノート形式。レポート又は読書感想文を1回提出。

## 国際経済論

永田 智 則

個々の経済主体が国境を越えておこなう経済活動は、国際経済における固有の相互依存と相互対立を生みだし、さまざまな国際経済現象をひきおこす。本講義ではこれら国際経済現象の解明の手がかりの修得を目的として、国際経済の基礎理論を簡潔かつ平明に提示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

## 国際金融論

池田 健

拙著国際金融論により国際金融の理論を講じ、なお必要により時事問題を解説する。

〔教科書〕池田 健『国際金融論』

## 民法 II

上井 長 久

民法は、われわれ市民の日常の衣食住などの財産、および親子・夫婦などの身分をめぐる社会生活関係を規律の対象とする法律であるといえる。本講では、主として、財産関係のうちで人に対する請求権すなわち債権を中心に扱い、まず、債権法全体の体系および概略を説明し、つぎに、条文に即して債権法総論、債権法各論—売買・賃貸借などの契約、事務管理、不当利得、不法行為など—の順に、それらに含まれる制度・原理の意義、機能、背景などを重点的に解明してゆく。

〔教科書・参考書〕開講のときに掲げる。

## 外書講読(英)

木下 照 嶽

現代は企業活動の国際化時代にあって、企業活動の会計・経営に関する、調査・取引・記録報告・データ分析・意志決定といった資料は、英語を中心とした外国語化する時代にある。こうした観点から国際会計に関する文献を、広い視野に立って渉猟して、語学力の向上とこうした問題への関心を深めたいと考えている。

毎時間プリントを用意する予定である。

## 外書講読(英)

高田 光明

英語を日本語に機械的に置き換えるだけでは英文を理解したことにはならない。この授業では、英語で書かれた専門書の内容を正確に把握できるようにする訓練を行う。教科書は、企業財務関係の入手しやすいプリント版を使用する予定である。なお、受講する学生は、授業で進める範囲を前もって必ず予習しておくことを希望する。

## 外書講読(英)

山田 勝

最近出版されたマーケティングの歴史に関する論文集, Terence Nevett and Ronald Fullerton ed, "Historical Perspectives in Marketing", 1988年の一部を講読する。必要部分はプリントで配布する。

## 外書講読(独)

百 濟 勇

最近の円高傾向に象徴される日本をとりまく世界経済の環境は、日本企業の海外進出を一段と加速させている。また1992年のECの統一共同市場の形成の下で、ヨーロッパの企業も“有望な”日本市場へのより活発な進出をはかっている。しかしとりわけ日本的流通機構の“複雑さ”は、外国企業の日本進出の障害になっていると言われている。西ドイツ企業の日本進出の具体的なケースを通じて「日本的経営」の特殊性と普遍性の内実を明らかにする目的で、下記の文献を読む。「日本的経営」に関するドイツ語による的確な表現の訓練を含めて、西ドイツの新聞、雑誌の記事にも注意を払う。テキストは、プリントで配布する。

〔教科書〕 Erich Batzer und Helmut Laumer :  
"Deutsche Unternehmen im  
Japangeschäft -  
Markterschließungsstrategien und  
Distributionswege", Ifo-Institut  
für Wirtschaftsforschung  
e. V. München, 1986

## 外書講読(仏)

桑田 禮彰

フランスの社会科学全般の現状を一流の筆者たちが詳細にしかも分かりやすく報告していることで定評のある下記の書物の中の、「経済学」の項に集められた諸論文のうち数本を読む予定。どれを読むかは、参加者と相談のうえ決める。活気あふれる現在のフランスの経済学全体の動きが概観できるような論文を選びたい。

参加者はフランス語の高い読解力を持っている必要はない。授業は、フランス語の基礎を確認しながら、ゆっくり進んでいくつもりである。尚、テキストはこちらで用意する。

〔教科書〕 Marc Guillaume (éd.), *L'état des sciences sociales en France*.  
Découverte.

## 外書講読(中)

松本 丁俊

近隣の中国は広大な国土と11億の人口をかかえ、長い歴史、高度な文化の伝統を持つ社会主義国家である。現代中国に対する認識、日本との関係がどうであろうか、日本と中国を比較する論文を読む合わせながら、授業を進んでいく。

〔教科書〕 プリント使用。

## 外書講読(ス)

細川 幸夫

学生諸君が1, 2年次で習得したスペイン語の知識を活用して、テキストは新聞スペイン語入門(芸林書房)を用い、スペイン語圏世界の文化・政治・経済・社会・スポーツ・広告などの記事に親しみ、且つ理解を深めるよう授業を進めます。

〔教科書〕 新聞スペイン語入門(芸林書房)  
¥1,200

## 外書講読(ロ)

杉山 秀子

はじめにやさしく書かれた社会科学文献をじっくり読むことにより、科学文献独特のロシア語の文章スタイルや表現法に馴れてもらい、序々に応

用力をつけていくようにしたい。テキストは

『*Читаем тексты по политической экономии*』(Издательство "Русский язык"著)の抜すいを基本的には使うが、あわせてプラウダ新聞の経済に関する社説や『*Международная жизнь*』誌等の最新記事もとりあげ、ペレストロイカ進行中のソ連社会の断面に光をあてていきたい。

〔教科書〕教場にてプリントを配布します。

## 商 法 II

荒 木 正 孝

手形法・小切手法および商行為法について講義する。しかし、年間の授業時間数の制約上、これらの全てについて説明することはできないので、現代の商取引において重要な役割を果たしている手形・小切手に関する法規制を中心に解説し、時間が許せば、商行為法にも言及することにしたい。

〔教科書〕大野実雄著『商法(手形法・商行為法)』  
(成文堂)

## 労 働 法

藤 本 茂

労働法は、諸君が近い将来、就職し一定の労働関係を形成するなかで大きな係わりをもつ法領域である。今日、労働法は、社会構造の激変期にあって大きく変化しようとしている。たとえば、近時の男女雇用機会均等法、労働時間を中心とした労基法の改正はその一端である。また、集团的労使関係領域も経済構造の変化等に伴う労働界の再編成のなかにあって、組合活動の保障、労働協約による労働条件の引き下げ等をめぐるテーマがある。

授業では、諸君の見聞しうる身近な事項を念頭におき、労働法上の基礎的な考え方を、なるだけ具体的な事例を用いて講義するつもりでいる。

〔教科書〕竹下英男編著『労働法の主要問題』

(エーデル研究所) ¥2,300

下井隆史著『労働基準法』

(日本労働協会)

〔参考書〕青木宗也・横井芳弘編『新版 判例ノ

ート労働法』(法学書院) ¥2,000

# 他学部履修科目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが、受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。(履修についての詳細は、「他学部科目の履修方法」を参照すること。)

# 目 次

禅学特講Ⅰ(原田 弘道).....1	国民所得論(吉野 紀).....7
禅学特講Ⅱ(黒丸 寛之).....1	中国経済論(小杉 修二).....7
禅学特講Ⅲ(石井 修道).....1	アジア経済論(小林 英夫).....7
禅学特講Ⅳ(鈴木 格禅).....1	日本経済史(木村 健二).....8
禅学思想史(峰岸 孝哉).....1	中小企業論(三井 逸友).....8
哲学史(中村 友太郎).....1	教育経済論(谷敷 正光).....8
印度仏教史(松本 史朗).....2	アメリカ経済論(瀬戸岡 紘).....8
中国仏教史(佐藤 達玄).....2	財務会計論(遠藤 孝).....8
日本仏教史(山内 舜雄).....2	管理会計論(中原 章吉).....9
日用經典(櫻井 秀雄).....2	会計監査論(飯岡 透).....9
仏教美術(中島 亮一).....2	商業政策(岩下 弘).....9
現代哲学概説(田島 節夫).....2	貿易論(古沢 紘造).....9
上代文学(小野 寛).....2	マーケティング(曾我 信孝).....9
中世文学(水原 一).....3	原価計算論(加藤 利安).....10
近世文学(富士 昭雄).....3	労務管理論(石井 脩二).....10
近代文学(片岡 懋).....3	行政法Ⅱ(齊藤 寿).....10
中国文学(中村 璋八).....3	民法Ⅳ(1)(青山 尚史).....10
英文学特講Ⅰ(石原 孝哉).....3	民法Ⅳ(2)(青山 尚史).....10
英文学特講Ⅱ(小林 亨).....3	比較憲法(竹花 光範).....10
英文学特講Ⅲ(高野 正夫).....3	地方自治法(梅木 崇).....11
英文学特講Ⅳ(中岡 洋).....3	経済法(川井 克倭).....11
英文学特講Ⅴ(高松 雄一).....4	国際関係論(首藤 素子).....11
英文学特講Ⅵ(丸小 哲雄).....4	西洋政治史(鬼柳 勝一).....11
英米演劇特講(落合 和昭).....4	宣伝広告論(上條 末夫).....11
米文学特講Ⅰ(東 雄一郎).....4	政党論(早川 純貴).....11
米文学特講Ⅲ(山縣 敏夫).....4	経営学史(北村 健之助).....12
時事英語(大沢 一雄).....4	国際経営論(武田 康).....12
地質学(小池 一之).....4	経営統計(後藤 儀一郎).....12
気候学(中村 和郎).....4	保険経営論(石名坂 邦昭).....12
人口地理学(上坂 修夫).....5	財務会計論(久松 治夫).....12
応用地理学Ⅰ(高木 正博).....5	経営分析論(片桐 伸夫).....12
都市地理学(今朝洞 重美).....5	税務会計論(高木 克己).....12
文化地理学(菱口 善美).....5	経営労務論(中村 眞人).....13
日本史特講Ⅶ(近代)(山口 一之).....5	商業史(山田 勝).....13
東洋史特講Ⅹ(近・現代)(渡辺 惇).....5	国文講読Ⅰ(上代)(佐原 作美).....13
西洋文化史Ⅰ(椽川 一朗).....5	国文講読Ⅱ(中古)(鈴木 儀一).....13
考古学特講Ⅲ(飯島 武次).....5	国文講読Ⅲ(中世)(岡崎 正).....13
歴史哲学(大石 紀一郎).....6	国文講読Ⅳ(近世)(清田 啓子).....13
哲学史(丸山 豊樹).....6	国文講読Ⅴ(近・現代)(大室 英爾).....13
日本民俗学(谷口 貢).....6	国文講読Ⅴ(近・現代)(田澤 英藏).....14
マスコミュニケーション(川本 勝).....6	国文特講Ⅴ(近・現代)(尾形 国治).....14
産業社会学(安藤 喜久雄).....6	英文タイプライティングⅡ(竹内 美恵子).....14
都市社会学(文屋 俊子).....6	時事英語(岡本 誠).....14
社会福祉発達史(林 千代).....7	計算機言語概論(杉田 徹).....14
ソビエト経済論(山縣 弘志).....7	臨床放射線特論Ⅰ(本間 襄).....14
社会政策(光岡 博美).....7	応用計測学(櫃尾 英次).....14

# 他学部履修科目

## 禅学特講 I

原 田 弘 道

### 禅宗と公案

公案は禅宗における經典観と深いかかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

## 禅学特講 II

黒 丸 寛 之

道元禅師の主著『正法眼蔵』を『永平広録』その他の著述との関連によって講読する。この講座では、必修科目としての『正法眼蔵』の講義内容とは異なり、出来るだけ多くの諸巻について、それぞれの撰述意義を学ぶことを目的とするので、1年間に20巻前後の解説を予定している。

## 禅学特講 III

石 井 修 道

『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張を明了である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにして、和刻本の誤読についても言及したい。

〔教科書〕『大慧書』（筑摩書房）¥3,500

## 禅学特講 IV

鈴 木 格 禅

### 『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に往した損翁宗益（1649～1708）のことである。損翁は面山瑞方（1683～1769）の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が一貫して流れている。本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕『続曹洞宗全書（法語・歌頌）』

P. 411～P. 445 までをコピーすること。

## 禅学思想史

峰 岸 孝 哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的な性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕

（春秋社）

〔参考書〕鈴木泰山『禅宗の地方発展』

（吉川弘文館）

## 哲学史

中 村 友 太 郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼としたい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史

という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシヤ哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕教場で指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

### 印度仏教史

松本史朗

インド仏教史を教団史・思想史の観点から概説しさらに個々の思想的問題について考察する。

〔教科書〕『仏教史概説』（平楽寺書店）

〔参考書〕平川 彰著『インド仏教史』（上・下）（春秋社）

奈良康明著『仏教史Ⅰ』（山川出版社）

### 中国仏教史

佐藤達玄

中國民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕『仏教史概説-中国篇』（平楽寺書店）

### 日本仏教史

山内舜雄

下記の教科書に依り、上古より中世を経て、鎌倉仏教までを概説する。特に鎌倉新宗の発生母胎になった、中世は中古天台本覚法門を詳説する。

〔教科書〕宇井伯寿著『日本仏教概史』（岩波書店）は絶版となっているが、古本もあり、必要箇所のみをコピーしてもよい。

### 日用経典

櫻井秀雄

曹洞宗常用経典・祖典の解題、および回向文と各種疏などに表われる文意の解明を通して、実践宗学の実際を究明する。

〔教科書〕櫻井秀雄著『曹洞宗回向文講義』

『続曹洞宗回向文講義』

### 仏教美術

中島亮一

仏教美術の研究には様式史、精神史、図像学などがある。これらはそれぞれ独立するものではなく、互いに交差している。特に日本では多様化したものの、図像の変更は許されなかった。そこで前半はスライドを使って、その多様化の跡を考え、後半はそれらの変化したもの、しなかったものの奥にある精神史、図像学を検討し、仏教美術はどうすればもっと親しまれ、理解されるかを考えてみたい。

〔教科書〕佐和隆研編『仏像案内』（吉川弘文館）  
¥1,760

〔参考書〕その都度指摘する。

### 現代哲学概説

田島節夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが、まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして、現象学におけるフッサール、分析哲学におけるフレーゲ、プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ、相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから、今日までにあらわれた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ、哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。本講義の視点を含むテキストとしては田島著『現象学と記号論』を参照されたい。ただし講義ではテーマに即した新たな題材をも取り扱うであろう。

〔教科書〕田島節夫著『現象学と記号論』

（世界書院）¥2,500

### 上代文学

小野寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。

『万葉集』をよむに当って、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。

〔教科書〕小野 寛著『新選万葉集抄』

(笠間書院)

〔参考書〕金井清一・小野 寛編『年表資料 上  
代文学史』(笠間書院)

## 中 世 文 学

水 原 一

鴨長明作『発心集』を読んで、仏教説話の意義に  
触れ、作者の人物像について考える。

〔教科書〕三木紀人著『方丈記・発心集』(新潮  
日本古典集成)(新潮社)

## 近 世 文 学

富 士 昭 雄

『猿蓑』の連句の講読を通して、蕉風俳諧の特  
質を考察する。また影印本の読解に習熟する。

〔教科書〕(影印本)『猿蓑』(武蔵野書院)  
¥620

## 近 代 文 学

片 岡 懋

島崎藤村と田山花袋の作品を中心に、明治20年  
代中葉以後の文学の展開の相を考察する。

## 中 国 文 学

中 村 璋 八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成  
した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式  
で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教な  
ど中国の文化の中で重要な位置を占めているだけ  
でなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期  
に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間  
行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及  
ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれ  
ている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻  
する人々には欠かせない内容を含むものと思う。  
是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』(明德出版)¥2,000

## 英文学特講Ⅰ

石 原 孝 哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世  
のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、  
過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、  
文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生  
の受講を望む。

〔教科書〕『シェイクスピア喜劇とロマンスの発  
展』(三修社)

## 英文学特講Ⅱ

小 林 亨

18世紀の主要な散文作家5, 6名を取り上げ、  
絢爛と花開いたイギリス近代小説の特質を考察す  
る。講義だけでなく出来る限り作品に接すること  
をこの講座の特徴としたい。

〔教科書〕教場にて指示する。

## 英文学特講Ⅲ

高 野 正 夫

詩が読者を失ってから久しいと言われているが、  
このような傾向に抗してイギリス的な詩の復興を  
唱えた、1950年代の‘The Movement’の詩人を中  
心に論じていく予定です。

〔教科書〕教場にて指示します。

## 英文学特講Ⅳ

中 岡 洋

イギリス小説の代表的傑作Jane EyreやWuther-  
ing Heights を残したBrontë sistersについて、  
彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生  
涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

### 英文学特講V

高松雄一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。

〔教科書〕開講時に指示する。

### 英文学特講VI

丸小哲雄

文学（虚構）テキストを批判的に検討する理論と実践。とりわけテキスト研究をすすめる。テキストの読み（物語構成を捉える遠近法）。テキストの解釈（テキストの意味と主題の捉え方）。そしてテキストの読みと解釈の後でどのようにしてテキスト批評を行なうか。前期では文学理論としてロシア・フォルマリズム、受容理論、構造主義、ポスト構造主義などを主として講義します。後期ではテキストの読み・解釈・批評の実践として、英米及び日本文学からテキストを選び、実践批評の意義と快楽を目指します。

〔教科書〕適宜、プリントを配布します。

### 英米演劇特講

落合和昭

今年度は、悲劇、メロドラマ、喜劇における構成要素を考察する。そのうち、現代演劇の思潮について学ぶ。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が数多くのっているアメリカの大学生用テキストを用いる。課題としては、レポートを十回（一回につき、原稿用紙一、二枚程度）を提出してもらう。

### 米文学特講I

東雄一郎

主として20世紀、現代のアメリカ詩を扱う。勿論、アメリカ詩の流れを考察する場合に不可欠な存在である詩人達、Edgar Allan Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson 等も扱うことは言うまでもない。実際、個々の詩人の代表作品を味読、鑑賞しながら講義をすすめていく。清教徒主義の

内向性と開拓者精神の外向性を常に偏在させ、American Renaissance, Realism, Chicago Renaissance, Harlem Renaissanceを展開させて行くアメリカの精神風土との関連の上から、Modernism とPost-Modernismを代表する詩人の個々の作品にあたるつもりである。

### 米文学特講III

山縣敏夫

20世紀アメリカ文学、特に黒人作家やユダヤ系作家の作品をとりあげ、社会的変遷とのかかわりあいについて研究する。

### 時事英語

大沢一雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいうと、新聞、テレビ、ラジオ等のmass media すなわちマスコミで用いられる英語である。

### 地質学

小池一之

地質学の基礎を中心に講義を進め、後半は、地球科学全般にわたるトピックスを講義したい。内容は、(1)地球史、(2)岩石と地層、(3)海洋底、(4)古地磁気と大陸移動、(5)プレート・テクトニクスなどである。講義にはスライド・ビデオをまじえる予定である。

〔教科書〕ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学III』（東大出版会）¥3,400

〔参考書〕ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学I・II』（東大出版会）各¥3,400  
貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,200

### 気候学

中村和郎

身近な気候現象に注目し、その研究を通して気

候学の基本的諸概念と研究方法，世界諸地域の気候を学ぶ。

小テストを3回実施する。

〔教科書〕中村和郎・内嶋善兵衛・木村龍治著  
『日本の気候』（岩波書店）

## 人口地理学

上坂修夫

人口現象は，社会地理，歴史地理，経済地理などの重要な構成要素であるが，それは単に量として捉えるだけではなく，質（構造）的に深くほりさげる必要がある事象である。この講義では，人文地理の諸分野で人口現象をいかに消化すべきかを考えとともに，いままで地理学ではあまり活用されなかった人口の地域的分析に関する種々の考え方や手法の説明も加え，人口現象にみられる一般的法則性と地域的特性とのかかわり合い方について考えていく予定である。

## 応用地理学 I

高木正博

河川と地域の関係を，災害・利水・親水などの視点から捉える。水と人とのかかわりあいについて，地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕大矢雅彦著『河川の開発と平野』

（大明堂）

山田安彦編著『地域の科学』

（古今書院）

## 都市地理学

今朝洞重美

都市の地理学的研究とは具体的にはどのようなものか，日本，外国にテーマをとり学習する。

〔参考書〕山鹿誠次著『都市地理学』（大明堂）

## 文化地理学

荻口善美

本講義では，まず文化地理学の中心的課題，す

なわち(1)文化，(2)文化領域，(3)文化景観，(4)文化史（誌），(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら，文化地理学的手法による地域分析について議論する。

## 日本史特講Ⅶ（近代）

山口一之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

## 東洋史特講Ⅹ（近・現代）

渡辺惇

近代中国民衆結社史：近代中国における民衆の動きを理解する一環として，秘密結社（会党・帮会）をとりあげ，その発生，発展，組織の特色，時代背景等について講義する。

〔教科書〕特に定めない。

〔参考書〕講義の中で紹介，指示する。

## 西洋文化史 I

椽川一朗

西洋の都市（とくにドイツ都市）の歴史を，社会構成を中心に講述する。

〔参考書〕椽川著『ドイツの都市と農村』

（吉川弘文館）¥2,900

## 考古学特講Ⅲ

飯島武次

夏殷周文化の考古学的研究。

## 歴史哲学

大石 紀一郎

この講義では、われわれが現代において「歴史」と取り組むことはどのような意味を持ちうるか、また、歴史の研究はどのようにして可能であるのか、そして、歴史に関する哲学的反省と歴史の研究とはどのような関係にあるのかという3つの問いを導きの糸にしつつ、ヨーロッパにおける「歴史」の思想の展開を概観し、とりわけ19世紀以降のドイツにおける歴史哲学と歴史学の関係、歴史主義とその克服の試みに焦点を当てて、現代における歴史とのありうべき関係を考えていくことにする。

〔教科書〕参考書等は講義のなかで指示する。

## 哲学史

丸山 豊樹

この講義の内容は「近代哲学史」である。近世哲学も古代・中世の哲学の発展であるから、最初は古代・中世との哲学との関連を概観した後で、近世独自の思想を論ずる。

近代を特徴づける最初の哲学は「イギリス経験論」と「大陸合理論」であるが、それを総合するカントの哲学は、近代の「科学」を対象とする最初の哲学とみなすことができ、その内容は現代においてもなお多くの問題を含んでいる。まずカントを重点的に論じた後で、その後の多様な現代哲学に論及するつもりである。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

## 日本民俗学

谷口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地で伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

## マスコミュニケーション

川本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようななかかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

## 産業社会学

安藤 喜久雄

産業社会学の生成、発展について概観するとともに、主要な領域について解説し、そこでの諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか考えてみたい。

〔教科書〕安藤多久雄他著『産業と組織の社会学』（学文社刊）

## 都市社会学

文屋 俊子

都市社会学の成立と展開、都市化、都市的生活様式、都市の社会構造についてとりあげる。とくに現代日本の大都市におけるひとびとの生活様式、生活の場としての都市における諸問題について、最近の研究をとりあげ、議論したい。

参考文献として、外国の新旧の論文を集めたものとして、

鈴木 広編『都市化の社会学（増補）』（誠信書房）¥3,800

日本の論文を集めたものとして、  
『リーディングス日本の社会学7 都市』（東京大学出版会）¥2,500

『リーディングス日本の社会学5 生活構造』（東京大学出版会）¥2,500

などが適当かと考えている。

## 社会福祉発達史

林 千 代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介

## ソビエト経済論

山 縣 弘 志

ソ連邦は第12次五ヶ年計画期に入っているが、社会主義経済の前途は平坦ではない。80年代の情勢とソ連経済70年の歴史は、我々に常に社会主義の原点に立ち帰り、科学的なアプローチを心懸けることを要求している。

〔教科書〕講義の中で指示する。

## 社会政策

光 岡 博 美

社会政策とは資本主義社会で発生する労働問題を体制の枠内で解決しようとする諸施策やイデオロギーの総体を表わす言葉として使用されている。本年度の講義では、社会政策の発祥の地であるドイツの社会政策思想、及び、それを受容した戦前日本の社会政策について説明する。また後期においては、賃金や労働条件が労使の自主的な団体交渉によって決定されるような労働問題処理の制度的枠組が成立した戦後の時代を対象とし、戦後日本における労使関係の史的展開についての講義を行うこととする。

〔参考書〕教場で指示する。

## 国民所得論

吉 野 紀

本講は現代マクロ経済理論の内容を経験的検証と具体的な政策への応用とに言及しつつ体系的に解説することを目的とする。主たる関心の対象は家計・企業等の集計部門であり、政府や海外部門を取り込んだ国民経済全体である。これら諸部門の経済活動水準がどのように決定され、また相互に影響し合うのかを解き明かすことによって、生きた経済現象を変貌して止まない姿としてとらえることができれば目的の過半は達成できたといえる。相互的関連の全体像を描くためにはIS-LM分析が教育的効果を依然持ち続けているので、早い時期にこれを扱い、徐々にこの枠を崩しながら現実の日本経済への応用力を高めてゆきたい。

## 中国経済論

小 杉 修 二

現代の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」等々話題にこと欠かない状況である。

本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

〔教科書〕小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設』

—超大国志向・低開発経済・社会主義—  
（龍溪書舎）¥3,000

## アジア経済論

小 林 英 夫

今年度は、戦後の日本とアジアの経済関係に焦点をあてその歴史的推移を論ずる。Ⅰ. 賠償過程 Ⅱ. 借款過程 Ⅲ. 直接企業進出の三つの時期に時期区分してその過程を追う。参考書は、追って指示する。

## 日本経済史

木村健二

幕末の開港以降、日本経済は世界資本主義のインパクトのもとで、近代化の道を邁進していった。しかしその道は決して平坦ではなく、しかも太平洋戦争の敗北へと帰結することになる。本講義では、この近代化の過程で切り結んだ対外経済関係、中でも国際的人口移動の誘因、諸結果に焦点をあて、現代日本が直面する国際関係のあるべき姿を考察していきたい。

テキストは追って指示する。

## 中小企業論

三井逸友

「中小企業」とは「マイナー」なものだという、日本の学生諸君に蔓延している『俗論』とは裏腹に、今や各国は挙げて国際的「中小企業フィーバー」の直中にある。その意味するところは何なのか、そして中小企業群の現実の存在とその状態はどのような理論的・現実的枠組から解明をされるべきなのか。ここでは、「分業関係の発展」と「競争と支配・管理」の展開を手掛かりとして、中小企業と大企業セクターとの経済的関係、中小企業群の集積と結合、「集中」と「過剰」のメカニズム、さらにこれらに対する「中小企業政策」の意味を解いていくことを講義のねらいとする。講義の中では、内外の豊富な話題・実態を盛り込んで説明していくつもりである。

〔教科書〕 巽・佐藤編『新 中小企業論を学ぶ』  
(有斐閣) ¥1,700

車戸 實編『中小企業論』  
(八千代出版) ¥3,200

〔参考書〕 中小企業庁編『中小企業白書』  
(各年次)

## 教育経済論

谷敷正光

経済発展に教育の果たした役割とその意義について考察する。特に、本年度は、戦前・戦後の日本資本主義発展と産業教育を中心に講義する予定である。

戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は戦後全体を、朝鮮戦争を契機に復活した日本独占資本の産業教育要求とそれに対応した政府の経済政策、

教育政策を日本資本主義発展との関連で概観し、戦後の教育政策は産業教育政策として国家、資本の要求にしたがってたえず変化し、支配化されていることを考察する。授業中必要な資料を配する。

〔教科書〕 豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』  
(東大出版)

〔参考書〕 高浜介二著『現代資本主義の発展と教育』(汐文社)

石井公一郎著『経営者からの教育改革案』(築地書房)

本庄良邦著『産業教育体制論研究』  
(三和書房)

『中教審と教育改革-財界の教育要求と中教審答申-』(三一書房)

『産業教育百年史』(ぎょうせい)

## アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

1987年度の私のアメリカ生活と研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情についてのトータルな解説をおこなう(アメリカの社会・国家・宗教とアメリカ資本主義の関連、財政と金融の制度と問題点、先端産業の役割と限界、農業の現状と諸問題、多国籍企業の実態、日米経済摩擦の経過と展望、アメリカの生活様式、ほか)。講義では、一回ごとにひとつずつテーマをかかげ、受講者諸君の関心にてらして問題をたて、それを具体的な資料やデータにもとづいて解明する。授業は極力たのしく、理路整然とわかりやすくすすめるつもりであるが、定刻に開始するので遅参しがちな学生は出席を遠慮されたい。なお一層ふかめて学習したい諸君には、私担当の原書講読をあわせて受講するようにすすめる。

## 財務会計論

遠藤 孝

会計学は狭義には財務会計論を指す。いいかえれば財務会計論は狭義会計学であり、会計学原理であるわけである。

一般に財務会計とは、企業活動-企業情報を、株主、債権者、労働組合など企業をとりまく利害関係者に報告・伝達する役割をはたす会計といわれている。この情報伝達の手段となるものが貸借対照表、損益計算書などの財務諸表であり、したがって財務会計論は財務諸表論としての性格をもっている。

いうまでもなく企業は社会的に重要な役割を

たしており、利害関係者も増大していて、社会性を高めている。したがってこれら企業の活動（情報）を伝達する財務会計についても、商法、税法、「企業会計原則」など種々の規制が加えられている。そしてこの社会的規制の内容によって財務会計の内容、性格は大きく変ることとなる。

この講義では、財務会計とは何か（その社会的意味・役割）、これを規制する企業会計制度の構造、役割、各国会計制度との比較、会計計算の構造、貸借対照表、損益計算書、連結財務諸表などの財務諸表の性格、内容、またとくに商法改正動向などについて講義する。

参考書などは講義の最初の時間に発表する。

なお、本講義は他学部、他学科に公開しており、経済学部その他、法学部の商法専攻者その他の履修を期待している。

### 管理会計論

中原章吉

会計学とは何かという考察の上で管理会計が財務会計との関連のうえでどのように位置づけられるのか。そして、管理会計とはどのような基礎のうえで成立しているものなのかを検討することから始めて、管理会計の内容に入っていく。とくにこの講義では企業における財務諸表分析と付加価値会計を内容としてとりあげていく。OAやメカトロニクスそして産業用ロボットによって第2の産業革命がさげばれているわが国の企業経営の中で、会計は、そして付加価値会計はどのように対応していくのか。また、欧米など諸外国の企業経営の中での会計の現状や歴史と、わが国との関連も考慮に入れて講義を展開していきたい。

〔教科書〕中原章吉著『企業付加価値計算書の研究』（白桃書房）¥3,500

〔参考書〕中原章吉編著『経営財務と管理会計』（中央経済社）

### 会計監査論

飯岡透

財務諸表監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大及び企業活動の複雑化に伴い、近年その役割はますます重要になっている。

本講義では、わが国をはじめ、英・米・西独の監査制度、監査役と会計監査人、監査証拠、個別

財務諸表・連結財務諸表・中間財務諸表の監査手続、監査報告書などについて教授する。

さらに、時間が許せば、営業報告書、後発事象、粉飾決算、簡易監査などにも言及したい。

〔教科書〕飯岡透著『株式会社会計監査論』（創成社）¥3,000

〔参考書〕飯岡透編『会計監査基本規則集』（創成社）¥800

### 商業政策

岩下弘

流通産業に対する公共政策について講義する。

〔教科書〕未定。

〔参考書〕その都度指示する。

### 貿易論

古沢紘造

日本の穀物自給率は33%で先進工業国中最低ですが、日本の工業品の輸出攻勢に起因する対米貿易の不均衡を是正するという理由で農産物のさらなる輸入を要求されています。一方東南アジアなどの発展途上国からは、日本は一次産品を主に輸入するだけで工業品を買ってくれないという不満の声が高まっています。本講義ではこうした現代の日本の貿易問題、対外経済問題について取り上げ、日本と世界（欧米、第三世界）の経済的かわりを深く掘り下げて考えてみることにしたいと思います。

〔参考書〕授業の進度に合わせて、そのつど紹介したいと思います。

### マーケティング

曾我信孝

現代社会の矛盾点をマーケティングの側面から分析する。その展開は、1つめに矛盾点を明確にするための分析をする。2つめにその矛盾点がマーケティングとどう関連しているかを検討する。3つめにマーケティング政策が社会的にどのような影響を及ぼしているか、批判的な側面から考察する。4つめに勤労的消費がどのように収奪されているかを明確にする。

「矛盾点」は一応分配の不均衡に置いている。

したがって、独占産業資本のみならず、独占商業資本の消費者支配のメカニズムも分析対象にする。  
〔参考書〕講義中に適宜紹介する。

## 原価計算論

加藤 利安

原価計算は企業会計の一領域を形成している。昨年度に続き本年度も、我が国の『原価計算基準』（原価計算制度）の内容を中心にして、原価計算の目的、役割、機能について講義するつもりである。またその際に、原価計算の発達や展開についてもできるだけふれることとする。試験は、中間と期末の2回行う予定である。講義はノートと以下の教科書、参考書を使用して行う。

〔教科書〕諸井勝之助著『原価計算講義』  
（東大出版会）

〔参考書〕津曲直躬著『原価計算論講義』  
（中央経済社）

## 労務管理論

石井 脩二

周知のように近年の日本企業をとりまく経営環境は、つとにその複雑さをまし、とりわけ国際化や情報化・ソフト化と称される経済基調や体質の転換のなかでその生き残り戦略が真剣に模索されている。この講義では、重大な経営環境の変化のなかで生き残り戦略の要となる「人事・労務管理」の新たな展開方向を検討するつもりである。特に、日本企業の海外進出が活発化するなかで従来日本企業の競争力の源泉をなしているといわれてきたいわゆる「日本的経営」がどの程度の通用性もちうるのか、また国内ではサービス経済化の波のなかでいかなる人事・労務管理が必要とされているのか、といった現在の諸問題を検討する。

〔参考書〕『労務管理先端シリーズ(1), (2), (3)』  
（中央経済社）各¥2,800

## 行政法 II

斉藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・营造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて、学んでいきます。そして、時間的に可能であれば、生活空間（環境）形成行政法などにも、および予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』（勁草書房）、  
『行政法 I・II』（評論社）など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

## 民法 IV (1)

青山 尚史

生活の基盤であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最小限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の大要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『親族法講義』（啓文社）

## 民法 IV (2)

青山 尚史

民法IV-(2)は、相続法（民法典第5編 882条～1044条）である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規律する純粋身分法を中心とするのに対して、相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は、大別すると、相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺留分法とから成り立っている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『親族法講義』（啓文社）

## 比較憲法

竹花 光範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法概念と分類
3. 国体と元首（共和制と君主制、元首、国のシンボル等）

4. 統治の原理と構造（民主政治の基本原理、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等）

〔教科書・参考書〕講義中で述べる。

地方自治法

梅 木 崇

憲法および行政法との関連を重視しながら、地方自治法における主要な制度を解説する。また、地方自治の運営について、行政の実態と裁判所の判例をとりあげ、その理解を深める。本講の目的は、地方自治法そのものを理解させることよりも、地方自治行政という行政の具体化過程を通じて、わが国における行政権の行使に関する基礎的なものの考えかたを学ぶとともに、統治の機構について、比較的詳細に考察する点にある。その際、諸種の公務員試験の問題についても説明するよう努める。

〔教科書・参考書〕開講にあたって指示する。

経 済 法

川 井 克 俊

経済法—独占禁止法を中心として—

第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法的位置づけ。

第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的・その他私的独占、カルテル、企業統合、独占的状态、不公正な取引方法等について、なるべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕特に使用しない。

〔参考書〕講義の中で紹介する。

国際関係論

首 藤 素 子

第1に、1950年代以降現在までの国際関係における行動主体の多様化についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係

について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕講義において指示する。

〔参考書〕細谷千博・臼井久和編

『国際政治の世界』

〔増補改訂版〕（有信堂）¥2,800

西洋政治史

鬼 柳 勝 一

ヨーロッパにおいて自由と民主化が今日ほど問われている時代はない。このような概念の実践と制度化をめざした政治が本格的に登場するのは、近代市民社会においてである。

講義は、受講生各自の関心を基礎に、近代市民革命から現代に至るまでの政治上の主要な問題を史的に整理しようと思う。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕講義進行の都度列挙する。

宣伝広告論

上 條 末 夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人との関係をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

政 党 論

早 川 純 貴

本年はドイツの政党政治に焦点を当てる。すなわち、ワイマール期の多党制の限界とナチズムの問題。戦後西ドイツにおける二大政党（CDU・SPD）の発展と包括化過程、そして近年の「緑の党」進出に見られる新しい政党と既存の政党と

の対立・連合の動き，等である。

〔教科書〕使用せず。

〔参考書〕講義時に随時紹介。

## 経営学史

北村 健之助

ドイツ経営経済学（前史，成立，1・2・3・4次方法論争，現代の経営経済学）およびアメリカ経営学（成行管理，科学的管理法，管理過程論，行動科学的展開）等々の発展過程を現代経営学を軸に探り，経営学の基本問題に迫ることができればと思います。テキスト，参考書は一応下記に示しましたが，必要があればその都度他の参考書もお薦めする積りです。

〔教科書〕藤芳誠一著『図説 経営学』（学文社）

## 国際経営論

武田 康

国内経営と国際経営の相違に焦点をおき，直接投資に関する諸問題の理論的側面を探究するとともに，日米両国の多国籍化の類型を歴史的視点から比較し，総合商社をはじめ，日本型国際経営の特質の解明を内容とする講義とする。

〔教科書〕武田 康著『国際経営の基礎的諸問題』（白桃書房）¥2,900

## 経営統計

後藤 儀一郎

統計学，特に推測統計学の知識は経営学あるいは経済学の分野においても広く用いられている。統計学はもはや資料の収集とそれを表や図で表わすだけのものでない。不確実性と危険を含むあらゆる状況を理論的かつ組織的な方法で考察する。推測統計学の理論を学びながらそれらが実際においてどのように応用（例えば統計的品質管理，時系列分析，線形計画等）されるかを，学習する。

〔参考書〕吉野・後藤著『現代統計解析』（芦書房）¥2,700

## 保険経営論

石名坂 邦 昭

今日，日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり，一方国内の個人消費，住宅投資，設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中において高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においてははかに各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から，リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際の問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕石名坂邦昭著『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房）¥2,500

## 財務会計論

久松 治夫

外部報告会計としての財務会計を研究する場合，わが国の財務会計を規制する2つの基本的規則，すなわち，「財務諸表規則」と「計算書類規則」に関連させつつ，財務会計の基礎を把握することが必要であり，このため，本年度の講義は下記の教科書を使用し，財務会計の基本問題について講述する予定である。

〔教科書〕山形休司著『財務会計総論』（中央経済社）¥2,300

〔参考書〕開講時に指示する。

## 経営分析論

片桐 伸夫

経営分析の方法を大略，以下の要領で講義する予定ですが，特に伝統的，基本的方法である収益性，流動性の分析にポイントを置きます。

1. 収益性分析
2. 流動性分析
3. 生産性分析
4. 成長性分析

〔教科書〕開講の時指示します。

## 税務会計論

高木 克己

我々が社会生活を送って行く上で，一生逃れる

ことが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし、企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを、広範な事例を解説しながら講義を進めて行くが、随時、我々個人の日常的な問題である所得税法についてもふれていくことにする。なお、テキスト、参考書は開講時に指示する。

### 経営労務論

中村 眞人

経営労務論は、企業経営における労働・労働力・労働者の諸問題を研究する学問である。特に、個別企業の労務管理および労使関係の理論・歴史・実態の解明をめざす。

本講義では、まず、企業労働に関する諸概念、労務管理と労使関係の歴史的発展などにつき概説する。つぎに、賃金、労働時間、雇用管理、労使関係、その他について各論を解説する。最後に、以上の知識をふまえた上で、現代日本における企業労働の具体的な諸問題を取り上げる予定である。

講義の中では、現実の諸事例にも、適宜、言及していく。

### 商業史

山田 勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人(社)を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

### 国文講読Ⅰ(上代)

佐原 作美

『万葉集』を対象として講読を行なう。  
〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』  
(桜楓社) ¥1,600

### 国文講読Ⅱ(中古)

鈴木 儀一

『清少納言枕草子』を読む。平面的解釈にとどまらずに、時代・社会の背景をも講述し、生き生きとした人間像をさがし求めて見たい。

〔教科書〕田中重太郎著『校注・枕草子』  
(笠間書院) ¥1,300

〔参考書〕適宜に指示する。

### 国文講読Ⅲ(中世)

岡崎 正

中世室町期に完成した演劇である能の詞章「謡曲」を読む。「謡曲」は先行文芸の粹をあつめ、そして後代文芸に大きな影響を与えた。いわば日本詩華の集散地のような位置にあった。謡曲を読むことによって劇文芸(戯曲)としての構造や、その文芸的価値を探る。

〔教科書〕増田・小林・羽田編

『能一本説と展開』(桜楓社)

### 国文講読Ⅳ(近世)

清田 啓子

近世怪異小説の白眉とされる『雨月物語』を読む。読本の発生と展開を見、作者秋成の果たした役割を見定めたい。

〔教科書〕水野稔校注『雨月物語』(明治書院)  
¥1,300

### 国文講読Ⅴ(近・現代)

大室 英爾

近代詩のなかから主に透谷、藤村、独歩、晚翠、泣菫、有明らの作品を取りあげる。作品を丹念に読み、詩史上の流れや傾向を検討しつつ鑑賞を深めたい。

〔教科書〕各種文庫及びプリントを使用。授業開始時に指示。

## 国文講読V (近・現代)

田澤英蔵

森鷗外の作品を読む。鷗外の文芸における當為の大略を知るために、最初の契機となるような作品について講ずる。

〔教科書〕重松泰雄編『森鷗外』（桜楓社）  
その他のものは開講後に指示する。

## 国文特講V (近・現代)

尾形国治

明治期の作家としては、坪内逍遙、二葉亭四迷、森鷗外、北村透谷、島崎藤村、夏目漱石、大正期では有島武郎、芥川龍之介などの代表作を読む。現代の作家では井伏鱒二、三浦哲郎のほか、戦後生まれの宮本輝、村上春樹、村上龍などを予定している。数少ない作品をじっくりと読んでみたいと考えている。

プリントを用意する。  
〔教科書〕各種文庫本

## 英文タイプライティングII

竹内美恵子

キーボードのブラインド・タッチを習得していることを前提として授業をすすめます。おもにレター、各文書をスピーディに処理できることを学びます。

細かい内容は教場で説明します。なお、授業では基礎実技の指導はいたしません。

## 時事英語

岡本誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除してくること。

〔教科書〕テープ使用。

## 計算機言語概論

杉田徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論
2. BASIC 言語
3. パーソナルコンピュータ (PC-9801)による実習

〔教科書〕戸川隼人著『ザ・BASIC』  
(サイエンス社) ¥1,700

## 臨床放射線特論I

本間襄

医療特に臨床にかかわる者の常識として、また医療人相互のコミュニケーションと診療録の内容を理解するのに欠かせない外来医学用語・技術用語・略称について講義する。

〔教科書〕特に定めない。

## 応用計測学

榎尾英治

X線CT装置、MRI装置および核医学装置（ガンマカメラ、シングルホトンCT、ポジロンCT）を中心とした医用機器のハードウェア、ソフトウェアについて概説する。また、超音波装置、CRならびにPACS等についても講述する。

## 教職および資格講座

教 職 課 程  
 学校図書館司書教諭講座  
 社会教育主事講座  
 博物館学講座  
 社会福祉主事 講座  
 社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。  
 (履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

課程・講座名	資格取得学部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

# 講義内容目次

## I 教職課程

### (1) 教職に関する専門科目(必修)

教育原理(磯野 昌蔵)	1
教育原理(上岡 安彦)	1
教育原理(北村 三子)	1
教育原理(坂本 信昭)	1
教育原理(村山 輝吉)	1
教育心理学(大浜 幾久子)	1
教育心理学(改田 明子)	2
教育心理学(国眼 真理子)	2
教育心理学(中村 均)	2
教育心理学(難波 和明)	2
青年心理学(大浜 幾久子)	2
青年心理学(川田 三夫)	2
青年心理学(岸本 弘)	2
青年心理学(牟田 悦子)	2
特別活動(中野目 直明)	3
生活指導(佐藤 尚人)	3
宗教科教育法(桜井 秀雄)	3
国語科教育法(神谷 道倫)	3
書道科教育法(谷村 義雄)	3
英語科教育法(大沢 一雄)	3
社会科教育法(川合 元彦)	3
社会科教育法(中島 義一)	4
社会科教育法(野呂 肖生)	4
社会科教育法(長谷部 八朗)	4
社会科教育法(谷敷 正光)	4
社会科教育法(大久保 治男)	4
社会科教育法(橋爪 敏)	5
職業科教育法(谷敷 正光)	5
商業科教育法(谷敷 正光)	5
道德教育の研究(上岡 安彦)	6
教育実習(上岡 安彦)	6
教育実習(北村 三子)	6
教育実習(坂本 信昭)	6
教育実習(村山 輝吉)	6

### (2) 教職に関する専門科目(選択)

教育史(磯野 昌蔵)	7
教育哲学(汐見 稔幸)	7
宗教教育(桜井 秀雄)	7
教育社会学(熊谷 一乗)	7
現代社会の諸問題と教育(熊谷 一乗)	7
教育評価(大浜 幾久子)	7
教育情報学(難波 和明)	8
教育調査(鈴木 規夫)	8
教育関係法規(荒牧 重人)	8
教育法規研究(浪本 勝年)	8
社会教育の基礎(社会教育概論) (磯野 昌蔵)	8
社会教育施設(村山 輝吉)	8

図書館学Ⅰ(山崎 慶子)	8
図書館学Ⅱ(源 昌久)	8
児童文化(湯山 厚)	8
青少年問題研究(和田 謙寿)	9
視聴覚教育(赤堀 正宜)	9
教育臨床心理学(牟田 隆郎)	9

### (3) 教科に関する専門科目

#### 【社会】

日本史概説(大久保 俊昭)	9
日本史概説(宮本 由紀子)	9
世界史概説(井村 行子)	9
世界史概説(渡辺 惇)	10
地誌学概説(今朝洞 重美)	10
地誌学概説(長野 寛)	10
地誌学概説(宮口 侗迪)	10
人文地理学概説(小林 高壽)	10
自然地理学概説(早船 元峰)	10
民法Ⅰ(林 幸司)	10
政治学原論(上条 末夫)	11
社会学原論(渡辺 源樹)	11
経済原論(小野 俊夫)	11
哲学概説(篠原 壽雄)	11
哲学概説(國嶋 一則)	11
倫理学概説(久保 陽一)	11
宗教学概説(脇本 平也)	11
宗教学概説(洗 建)	12

#### 【職業】

産業概説(前田 幸一)	12
職業指導(山田 勇治)	12
商業実習(前田 幸一)	12

#### 【商業】

職業指導(山田 勇治)	12
-------------	----

## II 学校図書館司書教諭講座

図書館学Ⅰ(山崎 慶子)	13
図書館学Ⅱ(源 昌久)	13

## III 社会教育主事講座

### (1) 必修科目

社会教育の基礎(社会教育概論) (磯野 昌蔵)	14
社会教育計画(村山 輝吉)	14
社会教育実習(磯野 昌蔵)	14
社会教育実習(上岡 安彦)	14

### (2) 選択必修科目

児童文化(湯山 厚)	14
現代社会の諸問題と教育(熊谷 一乗)	14
成人学習論(牧野 篤)	14

婦人問題と社会教育 (矢口 悦子) .....	15
青少年問題研究 (和田 謙寿) .....	15
青少年指導演習 (和田 謙寿) .....	15
社会教育行政 (牧野 篤) .....	15
社会教育施設 (村山 輝吉) .....	15
図書館学Ⅰ (山崎 慶子) .....	15
博物館学Ⅰ (倉田 芳郎) .....	15
博物館学Ⅱ (矢島 國雄) .....	16
企業内教育・職業訓練 (塩川 正人) .....	16
社会体育Ⅰ (古田 潤子) .....	16
社会体育Ⅱ (古田 潤子) .....	16
視聴覚教育 (赤堀 正宜) .....	16
教育原理 .....	16
教育史 (磯野 昌蔵) .....	16
教育心理学 .....	16
青年心理学 .....	16
社会心理学 (坪井 健) .....	16
教育社会学 (熊谷 一乗) .....	17
教育調査 (鈴木 規夫) .....	17

#### IV 博物館学講座

##### (1) 必修科目

博物館学Ⅰ (倉田 芳郎) .....	18
博物館学Ⅱ (矢島 國雄) .....	18
教育原理 .....	18
社会教育の基礎 (社会教育概論)	
(磯野 昌蔵) .....	18
視聴覚教育 (赤堀 正宜) .....	18
博物館実習Ⅰ (館務)	
(倉田芳郎・太田喜美子) .....	18
博物館実習Ⅱ (収集)	
(倉田芳郎・所 理喜夫・	
葉貫磨哉・太田喜美子) .....	19
考古発掘実習 (寺社下 博) .....	19
博物館実習Ⅲ (見学)	
(倉田芳郎・太田喜美子) .....	19

##### (2) 選択必修科目

日本文化史Ⅱ (廣瀬 良弘) .....	19
印度仏教文化史 (奈良 康明) .....	19
西洋文化史Ⅰ (椽川 一朗) .....	19
西洋文化史Ⅱ (三小田 敏雄) .....	20
仏教美術 (中島 亮一) .....	20
現代美術 (宮崎 克己) .....	20
禅美術 (海老根 聰郎) .....	20
美術史概説 (中島 亮一) .....	20
西域美術史 (相馬 隆) .....	20
考古学概説Ⅰ (日本) (倉田 芳郎) .....	20
考古学概説Ⅱ (外国) (飯島 武次) .....	20
考古学特講Ⅰ (高浜 秀) .....	21
考古学特講Ⅲ (飯島 武次) .....	21
日本民俗学 (谷口 貢) .....	21
仏教民俗学 (和田 謙寿) .....	21
宗教人類学 (佐々木 宏幹) .....	21

## V 社会福祉主事 講座

### 社会福祉士基礎

社会福祉原論 (伊藤 秀一) .....	22
社会福祉原論 (永田 幹夫) .....	22
老人福祉論 (東條 光雅) .....	22
障害者福祉論 (原田 信一) .....	22
児童福祉論 (許斐 有) .....	22
社会保障論 (近藤 功) .....	23
公的扶助論 (伊藤 秀一) .....	23
地域福祉論 (永田 幹夫) .....	23
心理学 (福祉) (井上 孝代) .....	23
社会学 (福祉) (星野 貞一郎) .....	23
法学 (福祉) (小林 弘人) .....	23
社会福祉援助技術現場実習	
(老人福祉施設・機関等) (東條 光雅) .....	24
社会福祉援助技術現場実習 (障害児 (者)	
施設・機関等) (伊藤 秀一) .....	24

※ ( ) 頁は他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示している。

# I 教 職 課 程

## (1) 教職に関する専門科目 (必修)

### 教 育 原 理

磯 野 昌 蔵

教育とはどういうことか。  
中等教育の歴史と問題。  
学校教育の役割。

### 教 育 原 理

上 岡 安 彦

『エミール』(上・中・下)を年間を通して読みます。次にそこで、出てくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。  
そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。  
〔教科書〕『エミール』(上・中・下)  
(岩波文庫)  
上 ¥570, 中 ¥520, 下 ¥520

### 教 育 原 理

北 村 三 子

前半は、自分達が経験してきた学校教育の性格をより広い視野から捉え直すことをめざす。後半は、『エミール』を手掛りに、近代人の自己疎外の深さに思いを至し、ルソーとともにありうべき教育像を模索する。  
〔教科書〕ルソー著『エミール』(岩波文庫)  
上 ¥570, 中・下 ¥520

### 教 育 原 理

坂 本 信 昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、とも

に考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える
12. 学びへの出発

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート

(エイデル研究所) ¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』

(学芸図書) ¥950

デューイ著、宮原誠一訳『学校と社会』

(岩波文庫) ¥200

### 教 育 原 理

村 山 輝 吉

テキストにそいながら、下村湖人の著作などを手がかりとして、人間の発達と教育、文化、社会の関わりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔参考書〕『下村湖人全集』〔全10巻〕(国土社)

『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』(東大出版会)

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』(岩波新書)

¥480

### 教育心理学

大 浜 幾 久 子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教

育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また知能テストなどの実習も行う。

## 教育心理学

改 田 明 子

教育心理学の基本的な問題について、学習する。また、必要に応じて、心理検査などの実習を行う。

〔参考書〕講義中に、そのつど紹介する。

## 教育心理学

国 眼 眞 理 子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学である。したがって広汎な領域が含まれるが、中学・高校の免許状取得を念頭において、「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」、「学習意欲と教育評価」の三領域を中心に学び、考えていきたい。

## 教育心理学

中 村 均

1. 発 達  
子どもはどのように大人になるか。
2. 学習と学習指導  
どのような仕組みで学習は起こるのか。学習を促進させるにはどうしたらよいのか。
3. 人 格  
一人一人の違いはどうとらえればよいか。能力と性格について。
4. 適 応
5. 学級集団  
学級集団はどのような役割を果すのか。
6. 教育評価
7. 心身障害児

## 教育心理学

難 波 和 明

動機づけ、ATIなどを中心として、教える立場からだけでなく、学ぶ側の立場を考慮にいた

授業を行うために必要な心理学的な話題を扱うとともに、認知心理学の最近の成果にも触れながら、教育について考えていく。

〔教科書〕その都度指示する。

## 青年心理学

大 浜 幾 久 子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また性格テストなどの実習も行う。

## 青年心理学

川 田 三 夫

今も昔も青年（期）をめぐる問題は少なくない。大きく見れば歴史、社会の問題とも言えるが、基本的には個人的・人格的な問題といえよう。

発達や人格に関する心理学理論の理解だけにとどまらず、現代の青年を理解するために必要な“キー・ワード”やコンセプト、青年にかかわるためのアプローチといったものにも言及してみたい。

国際化が言われる今日、古くて新しい問題でもある“日本的な”心性といったものを今の青年がどの程度意識しているのかを、学生諸君に問いかけながら考えてみたい。

〔教科書〕磯貝芳郎・福富 護・川田三夫著『現代青年』（ブレーン出版）』¥1,200

## 青年心理学

岸 本 弘

内外の青年心理学の研究業績を提示し、わが国の青少年をめぐる発達環境のゆがみについて考察したい。

〔教科書〕『思いやりの動機と達成動機』（学文社）¥4,300

## 青年心理学

牟 田 悦 子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をも

つかを考えながら、青年期の身体的、知的、情緒的発達や人間関係の特徴を見ていく。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考える契機をつくることもこの授業のねらいとしたい。

〔教科書〕岸本 弘編著『ポイント教育学—青年心理学』（学文社）¥1,000

## 特別活動

中野目 直 明

情報化、国際化、高齢化の進む現代社会において、広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え、人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として、次の内容を講義する。

1. 現代社会と学校教育の課題
2. 人間形成を目指す特別活動
3. 特別活動の内容とその指導

〔参考書〕中野目直明著『教育情報管理と学校経営』（エイデル研究所）¥2,000

## 生活指導

佐藤 尚 人

児童・生徒の教育を考える時、教科学習の指導はもちろん、学習がスムーズに行われるための環境づくり、わけても1人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要である。

本講義では、友だちができない・学習に集中できない・登校拒否・非行など具体的事例をもとに、子どもの精神発達の道すじを理解し、教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

〔教科書〕使用せず、講義ノートに基づき進めてゆく。

〔参考書〕随時指示する。

## 宗教科教育法

桜井 秀 雄

「宗教」の教員免許取得上、宗教教育の意義と歴史について知ると共に、宗教科の目標・教育課程・学習指導の実際について研究し、殊に、その視点を仏教におく。

## 国語科教育法

神谷 道 倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校 国語科教育法（新編）』（桜楓社）¥1,200

## 書道科教育法

谷村 義 雄

文字を書くことは誰でもできることで決してむずかしいことではない。しかし、書は中国においては四千年の歴史があり、日本においても千数百年の歴史がある。この間にいろいろな書体が出来、そしていろいろな書法が生れた。書の芸術は悠遠の歴史の中で開花したもので、現在もまた現在の書が生れつつある。書を単なる文字記号と考える浅薄な思考に対して、書のもつ思想性、民族性を十分に理解して、書とは何かを改めて問いたずら授業にしたいと思う。教育法はどう教えるかではなく、なにを教えるべきかを探究する内容にした。

〔参考書〕学習指導要領解説『芸術科』

## 英語科教育法

大沢 一 雄

多くの学者によって唱えられてきたいろいろな外国語教育法を検討し、わが国の英語教育において、どのような授業法を用いたらよいか、発音、語彙（い）、文法等の指導はどのようにしたらよいか、などを考える。講義は、ノートとプリントによっておこなう。

## 社会科教育法（地理）

川合 元 彦

社会科教育発足の背景を明らかにし、学習指導要領（社会）の変遷、社会科教育についての論争、

学習指導上の諸課題などを考察し、新学習指導要領（社会科・地歴科）についてもとりあげる。また、指導案の具体的な作成も行なう。地図帳は必ず持参すること。

〔参考書〕 随時必要に応じて指示する。

### 社会科教育法（地理）

中 島 義 一

社会科（地理）教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。下記教科書のほか、地図帳（高校用、中学用どちらでもよい）を忘れずに持ってくる。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

〔教科書〕 山崎謹哉著『新訂 地理教育の本質と実践』（古今書院）¥2,200

### 社会科教育法（歴史）

野 呂 肖 生

「中・高等学校の現場で社会科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科教育（とくに歴史）の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

### 社会科教育法

長谷部 八 朗

教育をめぐるさまざまな今日的課題にもふれながら、社会科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は、社会科の性格、目標、歴史、指導計画、指導案、教材研究、教育評価といった問題について、とりあげる予定である。

そして後期には、受講生にテーマを課し、発表してもらおう機会を持ちたい。

より詳しい進め方については、最初の授業で述べる。

〔教科書・参考書〕 適宜指示する。

### 社会科教育法

谷 敷 正 光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社

会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。年間の授業計画は次の通りである。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本原則、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本原則、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑨高等学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての社会科授業実践の研究、⑬社会科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕 梶 哲夫著『中等 社会科教育研究(1)』（高陵社）

遠山 啓著『競争原理を超えて』

（太郎次郎社）

石川達三著『人間の壁』（新潮文庫）

灰谷健次郎著『兔の眼』（新潮文庫）

〔参考書〕 矢川徳光著『教育とは何か』（新日本出版新書）

無着成恭著『山びこ学校』（角川文庫）

その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

### 社会科教育法

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法のより効果的实践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の

目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別にし模擬教育実習を通じて実践させることで目的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕『学習指導要領』（中学・高校の社会）各自が使用した社会関係の教科書。

## 社会科教育法

橋 爪 敏

社会科は、戦後の民主的諸改革の一環として、民主的な国民の形成を目的として設定された。したがって、単に知識の習得のみを目的とした教科ではなく、戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし、それも、現実の政治的状況のなかで紆余曲折し、また現在、再編が企図されつつある。そこで、社会科教師に求められる「資質」は他の教科のそれにも増して、厳しいものがあると言ってよからう。

この授業では、こうした点を踏まえた上で、社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また、模擬授業等の機会を設けて“教えること”を、実際の体験を通して学習することとしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

## 職業科教育法

谷 敷 正 光

この免許の「職業科」（職業・家庭科）は、1958年に学習指導要領の改訂によって、「技術科」（技術・家庭科）が新設され、「技術科」が必修となり、これまで必修であった「職業科」は選択科目となり、現在に至っている。職業科目のことを昭和44年度版の中学校学習指導要領では、「農業、工業、商業、水産」と明記されていたが、昭和52年度版では、「第2章第10節に示すその他特に必要な教科」となっている。

ところで、必修を従来の「職業科」から「技術科」へ変えた際、職業科担当教員に対して「職業」免許の「技術」免許への切りかえを完全に行なわなかったため、「技術科」の教員の中には、「職業」の免許で担当している人もいる。中学校社会

科の教員採用が厳しくなっており、「職業」の免許も生きる可能性があるので、教員志望者は、「社会」と併わせて履修することが望しい。

本講は、民主的で文化的な平和国家建設のための基礎的職業教育、人格の尊厳と人間の全能力の発達を中心とした人間形成のための職業教育を中心に授業を展開する。

〔教科書〕授業で、必要な教材を配布するので特に用意する必要はない。

〔参考書〕『講座現代技術と教育8 技術教育の歴史と展望』（帝国地方行政学会）近藤大生著『職業と教育』（福村出版）

## 商業科教育法

谷 敷 正 光

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育の「多様化」政策の破綻にもなつて、商業教育は大きく軌道修正され、さらに、先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されようとしている。従って、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終らせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。産業教育振興中央会や全国産業教育振興会連絡協議会などから「近年、産業高等学校の専門教科の教員の確保が困難を極めており」「教員養成に一層のお力添えをお願いいたします」との要請が私立大学協会に行われている（67年11月）ので、しっかり勉強して欲しい。年間の授業計画は次の通りである。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育、商業教育の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）城山三郎『素直な戦士たち』（新潮文庫）

灰谷健次郎『兎の眼』（新潮文庫）

〔参考書〕竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』  
（有斐閣）

田代三良『高校生』（岩波新書）

その他、商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

〔注 意〕年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。  
視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

## 教育実習

坂本信昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成—提出、教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、望ましい教師像について一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔参考書〕大村はま著『教えるということ』

（共文社）¥480

田村皖司他著『きょういく』ビジュアル

ノート（エイデル研究所）¥1,800

## 道徳教育の研究

上岡安彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕『道徳教育の研究』（改訂版）（学芸  
図書）¥773

## 教育実習

村山輝吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるよう、年間を通じて次の事項をとりあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

## 教育実習

上岡安彦

### 事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

### 訪問指導

実習期間の研究授業参加

### 事後指導

デュエイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥361

デュエイ『学校と社会』（岩波文庫）  
¥350

## 教育実習

北村三子

教育実習前は、実習に際しての注意や心構えなどを中心とする事前指導を行ない、実習後は、現場での体験を相互に交換し、深め合いつつ、学校教育の諸問題や教師の課題などについて考え合う。

## (2) 教職に関する専門科目（選択）

### 教育史

磯野昌蔵

わが国における青年期教育の発達を検討する。

### 教育哲学

汐見稔幸

中学生が自分の両親と祖母をメッタ刺しにして殺害する——そういうことがどうして「可能」なのか。この子はそこまで「追いつめ」られていたのか、それともふとした気分の変化で親すらも殺せるほどに現実と非現実の境目がアイマイになってきつつあるのか。この子の心情はうすめられた形ですべての子どものものとなっているのか。それともこの世代のこの子のようなタイプの子に特有なのか。教育は一体何をすればよいのか。—

そういうことをいっしょに考えてみませんか。12歳で自死をとげた岡真史君の詩集やささまざまなルポ・手記などを手掛りに、子どもの考現学を参加者といっしょに追求してみたいと思います。

〔参考書〕岡 真史『ぼくは12歳』（筑摩文庫）  
杉本 治『マー先のバカ』（青春出版）  
山崎 哲・芹沢俊介『子どもの犯罪と死』（春秋社）など。

### 宗教教育

櫻井秀雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

〔教科書〕日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版）1985.10 ¥5,800

### 教育社会学

熊谷一乗

登校拒否、偏差値支配、家庭内暴力などの教育をめぐる問題は、教育と社会との密接な関係のなかで発生してきている。重要な社会問題として注目されている教育上の諸問題をどう解決したらよいか、という問題意識のもとに、教育と社会との関係、教育の社会的過程を明らかにする。講義で扱われるテーマは、次のとおりである。

①人間の発達と社会的環境 ②集団と教育 ③教育と政治・経済との関係 ④教育と地域社会 ⑤マス・メディアと教育 ⑥学校と子どもの生活  
〔教科書〕熊谷一乗著『子どもの発達と社会—教育社会学の基礎』（東信堂）¥2,700

### 現代社会の諸問題と教育

熊谷一乗

現代の社会は、技術の革新、高度化にともなって激しく変化し、益々複雑化し、しかも緊急に解決を要する難問を次ぎから次ぎに引き起こしている。こうした社会の動向と問題は、教育の在り方に強く影響し、教育に新たな対応を迫ってくる。講義では、次ぎのようなテーマを設定して現代社会を特徴づける諸問題と教育との関係を検討する。  
(1)ハイテク化と教育 (2)情報化と教育 (3)国際化と教育(4)高齢化と教育 (5)環境問題と教育 (6)人権問題と教育(7)女性の職場進出と教育 (8)競争社会（自由化）と教育(9)生涯学習社会の形成と教育改革

〔教科書〕講義要旨および資料のコピー配布。  
〔参考書〕教室で指示。

### 教育評価

大浜幾久子

生徒の発達を正しく測定し、評価することは、本来、教師の教育実践の中で重要な仕事である。教師は、評価を通して、生徒のつまづきを発見し、自らの実践を反省する。また生徒も、評価を手がかりとして、以後の自分の学習の方向を考える。ところが、教育評価ということばから多くの人がまず思い浮かべるのは、学力テスト・偏差値・通信簿・内申書等であり、これらは、大多数の父母

・教師そして生徒にとって、今日の学校教育の矛盾の象徴として映っている。では、教育評価の本来的機能をとりもどすにはどうしたらよいのだろうか。教育評価の理論の歴史をたどり、また教育測定・評価の技法を実習を含めて学ぶことにより、この問題を考えていく。

〔参考書〕ピアジェ、秋枝茂夫訳『教育の未来』  
(法政大学出版局) ¥1,300

## 教育情報学

難波和明

パソコンによる実習によってコンピュータはどのような道具かを紹介するとともに、CAI、CMI、コンピュータ・リテラシーなど、コンピュータと教育に関する話題を扱いながら、情報化時代の教育について考えていく。

## 教育調査

鈴木規夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

## 教育関係法規

荒牧重人

現在さまざまな形態で生じている教育問題を視野に入れながら、人権としての教育という観点を中心に、憲法・教育基本法・学校教育法などの教育関係法規を概説します。学習指導要領、教科書、体罰、校則、学校事故、教育評価、研修、職員会議その他、教師になったときに直面するであろう教育法上の今日的問題も考察します。

〔参考書〕『解説 教育六法』〔1990〕(三省堂)

## 教育法規研究

浪本勝年

現代の学校は、公的な制度によって高度に組織化されている。したがって、学校教育をよりよく

理解するためには、教育に関する法規についての学習が不可欠となる。特に「初任者研修法」及び改正教育職員免許法が、昨年から実施され、教員養成問題は、今日、新たな困難な事態を迎えている。

この時間は、これから教職をめざす学生諸君が、ぜひとも身につけておくべき教育法規の基礎知識の修得に力点を置いて研究を進める。その際、臨教審「教育改革」関連法や教科書訴訟の判決の分析、さらには現実の教育政策の動向(中教審などを含む)にも注目しつつ学習する。したがって、結果として教員採用試験(選考)にも大いに役立つであろう。

〔教科書〕(開講時に示す)

〔参考書〕全国教員養成問題連絡会編『初任者研修法と教免法』(あゆみ出版)  
¥1,500

## 社会教育の基礎(社会教育概論)

磯野昌蔵

(P.14) 参照

## 社会教育施設

村山輝吉

(P.15) 参照

## 図書館学 I

山崎慶子

(P.13) 参照

## 図書館学 II

源昌久

(P.13) 参照

## 児童文化

湯山厚

児童文化とはなにかとか、その史的変遷とか、ないしはこれからのあり方は、といったふうに児童文化一般をではなく、現に身近にある名作物の絵本の主人公や、リバイバルソング風に歌われている童謡などを具体的に取り上げ、それらを歴史的に、あるいは他ジャンルとの関連、さらには公

教育との関係——といった視点からとらえなおし、子どもをとりまく環境の一部をなしている文化財を見なおすいとぐちとする。

〔参考書〕『日本唱歌集』（岩波文庫）¥450

木下順二・文『かにむかし』

（岩波書店）¥1,400

H. A. レイ・光吉夏弥訳

『ひとまねこざる』（岩波書店）

¥1,300

### 青少年問題研究

和田 謙 寿

校内暴力や家庭内暴力・いじめ、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際的な面からの考察が必要である。今年には特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者をつめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕和田謙寿著『少年補導の研究』訂正版（天志堂印刷）¥2,500

## (3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

### 【社会】

#### 日本史概説

大久保 俊 昭

日本史のなかで、とくに中世・近世をテーマとして、政治史・経済史などを中心に検討してみたい。参考書等未定。

#### 視聴覚教育

赤 堀 正 宣

(P.16) 参照

#### 教育臨床心理学

牟 田 隆 郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は、必ずしも適正なものとはいえない。そのために、感受性に富む若い人たちが、社会のもつさまざまな矛盾を、「問題」というかたちで表現してもいる。

本講義では、社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ、その発生の機序と対応について、心理面・社会面等から考察していく。

#### 日本史概説

宮 本 由 紀 子

通史を概観しつつ、各時代の女性の社会における地位や生き方を検討する。特に教職科目ということもあり、基礎的かつ具体的な内容に留意する。講義はノート中心とし、教科書の指定はない。

#### 世界史概説

井 村 行 子

ヨーロッパ、アメリカの歴史を中心とするが、時間の許す範囲内においてアラブ・アフリカ世界

についても言及していきたい。教科書等については開講時に指示する。

### 世界史概説

渡 辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

### 地誌学概説

今朝洞 重 美

地誌学の本質を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を講義する。

### 地誌学概説

長 野 覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したのち、現代世界の地域特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習する。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕藤岡謙二郎共著『世界地誌』（改訂版）（大明堂）

### 地誌学概説

宮 口 侗 迪

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。教科書は特に使用せず、参考書は講義中に紹介する。

### 人文地理学概説

小 林 高 寿

歴史学は時間の経過を追って、人間の作り出した社会構造と人間心理に迫ってゆくが、地理学は空間の中に人文現象と、人間の認識される範囲の自然現象を追求し、説明する。人文地理学は従って常に歴史現象と歴史学とに交錯しつつ、人文現象に対する学的究明を深め、拡大しつつ、空間のもつ意味を固定的にでなく、究明しようとする。それ故にそこで扱われる素材は多様となる。

かくの如くして、本講においては、人文地理学の多様性をしっかりと受けとめ、将来の教職の現場にあって、応用のきく学問を勉強させようとする。

環境としての自然の基礎的理解、歴史学と地理学の交錯分野にまで、講義の内容が及ぶのは必然である。

〔教科書〕長谷川典夫著『教養のための地理学トピックス』（大明堂）¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮書店地理統計。

### 自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種々なる作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

### 民法 I

林 幸 司

民法典のうち第一編「総則」と第二編「物権」（いわゆる担保物権法を含む）を対象とし、その基本的な構造の理解を目的とする。

また本講義では、重要な法制度や権利・義務が「受講生自身の日常生活とどのように密着しているか」を実感できるように留意し、『鶴呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもらえよう努力していきたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。  
〔参考書〕開講時に指示する。

### 政治学原論

上 條 末 夫

国家、権力、イデオロギー、議会、選挙、政党などの概念の解説を通じて政治の本質を明らかにすることに主眼をおく。また、政治システムにおける主権者たる国民の政治参加のあり方や役割を明確にし、民主政治のあるべき姿を示したい。そのことによって、将来政治教育の一端を担う際に必要な最小限の基礎学力が身につくような講義とする。

〔教科書〕加藤秀治郎著『政治学入門』（芦書房）  
¥2,000

〔参考書〕上條末夫ほか著『基礎政治学』（北樹出版）¥2,300

### 社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

### 経済原論

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済を理解する力を養うことを目指す。  
〔教科書〕開講の際に指示する。

### 哲学概説

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにか受

容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕『荘子』（内篇）（中公文庫）

### 哲学概説

國 嶋 一 則

「知ることを愛し求める」のは人間の本性であるが、これが哲学philosophiaの原義である。こんにち哲学とは、自分が生きて行くに当り最も重要なもの＝原理を探求することである。このためには、その原理がいかなるものであり、それをいかに実現すべきかが問われねばならぬ。ここに価値論が成立する。しかしこの価値論の前に、価値とはいかなる存在であるかが知られねばならぬ。ここに存在論が成立する。さらにまた存在論の前に、その存在がいかに認識されうるかが解決されねばならぬ。ここに認識論が成立する。

本講義は認識論、存在論、価値論の順に進められる。

〔教科書〕その都度示す。

### 倫理学概説

久 保 陽 一

デカルト以来の主観-客観図式や人間中心主義とりわけ意識内在主義の限界を説くことが「現代哲学」の合言葉となっているかのようにみえる。しかし意識を言語や実存や行為や無意識等で置き換えるだけで、人間の自己認識の問題が解消するわけではない。この問題については、カントからヘーゲルにいたるドイツ古典哲学から尚学すべきものが多い。前期ではカントの道徳哲学について、後期ではヘーゲルの「人倫」の思想や宗教哲学について取り上げることにしたい。

〔参考書〕カント著『道徳形而上学原論』（岩波文庫）

ヘーゲル著『法の哲学』（中央公論社世界の名著「ヘーゲル」）、ヤメ・ペグラー編『ヘーゲル・ヘルダーリンとその仲間』（公論社）

### 宗教学概説

協 本 平 也

——宗教学説史——経験科学としての宗教学の

成立と展開を、問題中心に学説史的にあとづけてみる。

参考文献をその都度指示する。

## 商業実習

前田幸一

商品取引における事務手続きについて勉強をしていく。

〔教科書・参考書〕講義の際指示する。

## 宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から宗教社会学的問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。

〔参考書〕適時指示する。

## 【商業】

## 職業指導

山田勇治

(P.12) 参照

## 【職業】

## 産業概説

前田幸一

日本の主要な諸産業を順次とりあげ、それらの産業の特性と歴史、現状と問題点を勉強していく。

〔参考書〕宮沢健一・竹内 宏編『日本産業教室』(有斐閣)

日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』(東洋経済新報社)

武藤博道・日本経済研究センター編

『図説日本産業』(日本経済新聞社)

## 職業指導

山田勇治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学のみならず、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸ばし、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕山田勇治著『会計教育論』(創成社)

¥1,300

〔参考書〕近藤大生・有本 章編著『職業と教育—職業指導論—』(福村出版)

¥1,500

## Ⅱ 学校図書館司書教諭講座

### 図書館学Ⅰ

山崎慶子

児童・生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか。増大する一方の出版物や各種の情報が溢れる現代社会において、それを選択し活用する力を高めるにはどうしたらよいか。また人間形成に役立つ読書のあり方などの追求を、教育の場の中心ともいうべき学校図書館活動として考察していきたい。さらに生涯教育の場である公立図書館の使命や役割への理解を深めるようにしたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」を、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』（学芸図書）

### 図書館学Ⅱ

源昌久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕日本図書館協会分類委員会改訂（編集）  
『日本十進分類法 新訂8版』  
（日本図書館協会）  
日本図書館協会目録委員会編  
『日本目録規則1987年度版』  
（日本図書館協会）

### Ⅲ 社会教育主事講座

#### (1) 必修科目

##### 社会教育の基礎（社会教育概論）

磯野昌蔵

- 社会教育とは何かを次の諸点から検討する。
  - 社会教育制度
  - 学校教育と社会教育
  - 社会教育関係団体

##### 社会教育実習

磯野昌蔵

- 実習前の準備（大学）  
実習  
実習後・社会教育の実際について検討（大学）

##### 社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化，地域社会と社会教育，社会教育調査とデータの活用，社会教育事業計画，学習情報の提供と学習相談，社会教育と広報・広聴，社会教育施設の経営，社会教育の評価等が主な内容となる。

〔参考書〕 碓井正久・倉内史郎編著『新社会教育』（学文社）¥2,000

##### 社会教育実習

上岡安彦

- 事前指導  
社会教育分野の活動について講義
- 実習期間  
社会教育施設訪問指導
- 事後指導  
ジェルピ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し，日本の教育を考えてみる。  
〔教科書〕 永田良行著『成人教育への挑戦』（全日本社会教育連合会）¥773  
ジェルピ著『生涯教育』（東京創元社）¥1,500

#### (2) 選択必修科目

##### 児童文化

(P. 8) 参照

##### 現代社会の諸問題と教育

(P. 7) 参照

##### 成人学習論

牧野篤

中央教育審議会生涯学習小委員会の審議経過報告が出され，今後，教育体系全体を生涯学習体系へと再編していく基本的な方向性が示された。それは，「職業能力開発」をキーワードとし，学習・職業訓練・就労等をすべて個人の責任に還元しつつ，その成果を企業・国家へくり返すという構造をもっている。この背後には，日本の産業構造

の転換と国際的な位置の変化が存在する。この講義では、権利としての学習の思想を基礎に、今日、成人が自らの生活において学ぶとはどういうことなのかを、既述の世界的な動向を視野に入れつつ、考察したい。

- 〔参考書〕小川利夫編『生涯学習と公民館』（亜紀書房）1987年  
ジェルビ著『生涯学習』（東京創元社）1983年  
新田照夫編『地域に開かれた学園都市』（同時代社）1989年

### 婦人問題と社会教育

矢口悦子

婦人問題の解決にむけて社会教育はこれまでどのような活動を展開してきたのか、今後何をなすべきかを明らかにしたい。特に、学習者の婦人問題への認識の深まりを軸として進められる婦人問題学習の事例を紹介する。それを通じて、皆さん自身の意識や状況についても考えていただきたいと思っている。

〔参考書〕必要に応じて提示する。

### 青少年問題研究

和田謙寿

(P. 8) 参照

### 青少年指導演習

和田謙寿

将来、青少年指導者を希望する者、つまり、社会教育主事や社会福祉主事、少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人たちには是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと、受持ち生徒の生活指導にも多大の比重で尽くさねばならぬので、非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち、研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

### 社会教育行政

牧野篤

文部省の社会教育局が生涯学習局へと改組され、筆頭部局となったように、国の教育政策全体が生涯学習体系へと移行しつつある。この講義では、戦後の社会教育行政の基本を、憲法・教育基本法・社会教育法の三者の構造的な連関の中でとらえるとともに、生涯学習体系への移行期において、国民の学習権を生涯にわたって保障する社会教育行政はいかにあるべきかを、考察したい。

〔参考書〕社会教育推進全国協議会編『改訂 社会教育ハンドブック』（エイデル研究所）1984年

小川利夫編『社会教育の法と行政』

（亜紀書房）1987年

文部省編『我が国の文教政策』

1988年版

### 社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは何か
2. 社会教育施設にかかわる人々
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向と課題

〔参考書〕小林文人編『公民館・図書館・博物館』（講座・現代社会教育 第6巻）（亜紀書房）

### 図書館学 I

山崎慶子

(P. 13) 参照

### 博物館学 I

倉田芳郎

(P. 18) 参照

## 博物館学Ⅱ

矢 島 國 雄

(P.18) 参照

## 企業内教育・職業訓練

塩 川 正 人

「企業は人なり」と言われます。企業が今取り組んでいる最重要戦略のひとつが「企業人教育」です。その理由は、嵐の時代ともいえる現代を生き抜く道は、人づくりなしにありえないからです。

本講義は、各種の企業のさまざまな人の育て方を、実証的に学び、学生諸君に企業の生きた姿を紹介します。

講師自身が経営教育コンサルタントとして、今実践している企業人教育の事例と理論を生かし、大学と企業の間には橋をかける講義を、討論や対話も入れて展開します。

〔教科書〕塩川正人著『MTS 総力経営』

(日本能率協会) ¥1,000

## 社会体育Ⅰ

古 田 潤 子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということを動きを通じて考え、行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育Ⅰ・Ⅱ」は必ず対で履修すること。

〔参考書〕野口三千三著『原初生命体としての人間』(三笠書房) ¥980

## 社会体育Ⅱ

古 田 潤 子

人間の動きと道具との関係。

動きに於ける人と人との対話。

動きと呼吸との関係。

動きのイメージ。

効率のいい力の使い方。

あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本姿勢…等について動きながらたしかめ、自己発見していきます。

## 視聴覚教育

赤 堀 正 宜

(P.18) 参照

## 教育原理

(P.1) 参照

## 教育史

磯 野 昌 蔵

(P.7) 参照

## 教育心理学

(P.1・2)参照

## 青年心理学

(P.2) 参照

## 社会心理学

坪 井 健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理(行動)に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理(行動)に関心を持ち、社会過程を重視する社会的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕穴田義孝編『こころ・行動そして社会』(人間の科学社)

教育社会学

熊谷一乘

(P. 7) 参照

教育調査

鈴木規夫

(P. 8) 参照

## IV 博物館学講座

### (1) 必修科目

#### 博物館学Ⅰ

倉田 芳 郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「博物館学Ⅱ」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法について、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

#### 博物館学Ⅱ

矢 島 國 雄

博物館は近代西欧に起源をもつ社会教育機関である。「文化」と「生涯教育」の重要性の叫ばれる今日、博物館に期待される役割は重いものがある。

本講義では「博物館とは何か」、「博物館の専門的職員としての『学芸員』の使命と役割は何か」という問題を中心的な課題とし、あわせて博物館の現状と問題点について触れながら、あるべき博物館像をともに考えたい。受講生諸君には講義と平行して、できるだけ多くの博物館を自分自身の眼で見ることをお願いしたい。

〔教科書〕倉田公裕著『博物館学』（東京堂出版）  
¥2,500

#### 教育原理

(P.1) 参照

#### 社会教育の基礎（社会教育概論）

磯 野 昌 蔵

(P.14) 参照

#### 視聴覚教育

赤 堀 正 宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータ通信等のニューメディアの利用について考える。

学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔参考書〕プリント使用

#### 博物館実習Ⅰ（館務）

倉 田 芳 郎・太 田 喜 美 子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

### 博物館実習Ⅱ（収集）

倉田芳郎・所 理喜夫  
葉貫磨哉・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 12月か2月
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬

### 考古発掘実習

寺社下 博

野外における考古発掘実習を行なう。30日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

〔教科書〕文化庁文化財保護部『埋蔵文化財発掘調査の手びき』（助国土地理協会）

## (2) 選択必修科目

### 日本文化史Ⅱ

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し、とくに北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山の文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

### 印度仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、

### 博物館実習Ⅲ（見学）

倉田芳郎・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方の講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰーインド、東南アジアー』（山川出版社）  
奈良康明著『釈尊との対話』（NHKブックス）

### 西洋文化史Ⅰ

椽川一朗

西洋の都市（とくにドイツ都市）の歴史を、社会構成を中心に講述する。

〔参考書〕椽川著『ドイツの都市と農村』（吉川弘文館）¥2,900

## 西洋文化史Ⅱ

三小田 敏 雄

今年は西洋文化の原点であるギリシア文化を中心に学ぶ予定である。歴史的知識を基礎に考古学、哲学思想、社会構造、経済、芸術など多面的にギリシア文化を考えて行きたい。教科書は年間2、3冊の文庫本を予定している。その都度教室で指定する。またレポートを課して教室で発表してもらう。積極的に学習に参加してもらいたい。

## 仏教美術

中 島 亮 一

仏教美術の研究には様式史、精神史、図像学などがある。これらはそれぞれ独立するものではなく、互いに交差している。特に日本では多様化したものの、図像の変更は許されなかった。そこで前半はスライドを使って、その多様化の跡を考え、後半はそれらの変化したもの、しなかったものの奥にある精神史、図像学を検討し、仏教美術はどうすればもっと親しまれ、理解されるかを考えてみたい。

〔教科書〕佐和隆研編『仏像案内』（吉川弘文館）  
¥1,760

〔参考書〕その都度指摘する。

## 現代美術

宮 崎 克 己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩、空間など）、表現内容の問題（象徴性、思想など）、社会的問題（展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など）等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

## 禅美術

海老根 聰 郎

日本の中世時代（鎌倉、南北朝、室町時代）の絵画の流れを、画家を中心としてのべる。とりあげる画家は、黙庵、良全、周文、雪舟などである。（毎回スライドを使用する。）

## 美術史概説

中 島 亮 一

美術史を学ぶには、未だに生命を保ち続ける遺跡、遺物の研究が重要で、それらを生んだ民族、風土、思潮、美意識、作家集団などをマクロ的に、またミクロ的に検討することが必要である。そこで前半では主に西欧の美術、後半では主に東洋の美術に視点をおき、その造形理念や技術をスライドを使って、芸術学的な視点からも考察を加え、更に「見せる側」、「見る側」の鑑賞とは如何にあるべきかなどについても考えたい。

〔教科書〕井上 章著『美と美術』（家政教育社）  
¥1,545

〔参考書〕その都度指摘する。

## 西域美術史

相 馬 隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮大なる絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。（スライド使用）

## 考古学概説Ⅰ（日本）

倉 田 芳 郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

## 考古学概説Ⅱ（外国）

飯 島 武 次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕江上波夫監修『考古学ゼミナール』（山川出版社）1976年 ¥2,800













